

学校の教育目標	1 学習指導のさらなる充実 2 生徒の社会性の向上 3 保護者、家庭との連携強化 4 教職員の資質向上 5 学校運営の効率化(働き方改革)
---------	---

教科の目標	○日本語運用能力を高めることでより豊かな社会性を身に付けさせる。 ○古典の鑑賞を通して人生観や世界観を広げさせる。 ○小説や評論の読解を通して情操を豊かにするとともに思考力・判断力・表現力を養う。
-------	--

科目名		単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)		
現代の国語		2	通信制・普通科・第1学年	新編現代の国語(東京書籍)		
科目の目標		○実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 ○論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養うレポートを通して定期的且つ継続的な漢字指導を行う。				
レポート 締切日	レポート内容	レポート 回数	レポートで育成する資質・能力 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	スクー リング 回数	学習活動 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	
5月20日	ルリボシカミキリの青	1	①比喻表現の修辞について理解を深めている。個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。 ②「書くこと」において、論理の展開、文章の構成などを工夫している。 ③作者の主張の要旨を捉え、今までの学習を生かし本文の内容から自分の興味・関心を確認し、考えをまとめ伝えようとしている。	1	①言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。本文を通読して、内容を把握する。 ②「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 ③筆者の熱中したことを表現に即して捉え、理解する。	
6月20日	未来をつくる想像力	2	①言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 ②「読むこと」において、目的に応じて、文章や図表の情報を解釈している。またその情報についての的確に要旨や要点を把握している。 ③筆者の考える「想像力」を理解し、情報社会における自己の在り方について考えようとしている。	2	①「イメージの貧困」がなぜ起きるのか・「イメージの共有」がなぜ個人の単独性を失わせるのかを理解する。 ②筆者の考える「社会」とはどのようなものかを理解する。 ③粘り強く筆者の考える「想像力」を理解し、学習課題に沿って実際の生活を見直し、情報社会における自己の在り方について考えを深め、話会おうとしている。	
7月20日	無彩の色	3	①文章の効果的な組み立てや接続の方法について理解している。灰色に対する一般的なイメージと特性を把握して、まとめる。イメージを掲げさせ、筆者の評価と比較させる。 ②「読むこと」において、文章に含まれている情報を相互に関係づけながら作者の意図を解釈すると共に、自分の考えを深めている。グレー色についての特色・伝統色としての理解をする。 ③課題設問に従って本文の構成をとらえようとしている。筆者の主張する灰色についての日本文化の特色を、伝統色を確認しながら理解する。	2	①言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 ②「読むこと」において要旨や要点を把握している。 ③進んで筆者の「灰色」に対する価値観や主張を理解し、学習課題に沿って色彩に対する自分の考えを深め、発表しようとしている。	
10月20日	鍋洗いの日々	4	①常用漢字の読み・書きに慣れ、文章の中で使っている。 ②「読むこと」において、作者の叙述から心情を的確に捉えている。作者の厳しい体験から自分の考えを深めている。 ③進んで筆者の体験談から職業について見聞きしたことを理解している。	3	①本文を通読して、内容を把握する。調理場での実体験を通して厳しい体験を話し合う。 ②常用漢字の基本演習の反復練習を実施する。 ③今までの学習を生かして職業について見聞きしたことを発表しようとしている。	
11月20日	りんごのほっぺ	5	①四つの部分に書かれている事柄を要約し、出来事の順序に注意しながら、本文を通読する。 ②「読むこと」において、戦争体験者の願いを理解し、題名に込められた筆者の思いについて考えたことをまとめる。 ③戦争体験を語り継いでいくことの意義について話し合う。	3	①文、話、文章の効果的な組み立て方や接続について理解している。 ②内容や構成、論理の展開についての的確に捉えている。 ③筆者の思いを理解し、戦争体験を語り継ぐ意義を考え、話し合おうとしている。	
12月20日	美しさの発見	6	①取り上げられている具体例に注意しながら、本文を通読する。 ②「同じ一つの心の働き」について考え、『『美しさ』を知る』ために必要なことを話し合う。言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 ③粘り強く取り上げられた具体例の展開に注目しながら、筆者の「美しさの発見」についての価値観や主張を	4	①本文の漢字、語句の意味について調べ語彙を豊かにする。 ②筆者の「美しさの発見」についての価値観や主張を理解している。 ③筆者は「美しさの発見」とはどのようなものであるとのべているか、「美しさ」を知るために必要な感受性の養い方について自分の考えを深める。	
レポートの計		6				

学校の教育目標	1 学習指導のさらなる充実 2 生徒の社会性の向上 3 保護者、家庭との連携強化 4 教職員の資質向上 5 学校運営の効率化(働き方改革)
---------	--

教科の目標	○日本語運用能力を高めることでより豊かな社会性を身に付けさせる。 ○古典の鑑賞を通して人生観や世界観を広げさせる。 ○小説や評論の読解を通して情操を豊かにするとともに思考力・判断力・表現力を養う。
-------	--

科目名		単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)	
言語文化		2	通信制・普通科・第1学年	新編言語文化(東京書籍)	
科目の目標		○生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ○論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
レポート締切日	レポート内容	レポート回数	レポートで育成する資質・能力 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	スクーリング回数	学習活動 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」
5月20日	古文入門 古文に親しむ 古文の言葉と仮名遣い 児のそら寝	1	①言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解する。 ②古典に親しむために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解する。 ③気に入った作品の冒頭部分を暗唱し、古文のリズムや調子を体感する。	1	①古文と現代文の違いについて理解し、古文の読み方やリズムに親しんでいる。 ②児の気持ちの変化を整理し、最後の描写の意味についてまとめられている。 ③進んで音読して古典の世界に親しみ、学習課題に沿って古文のリズムや調子を感じ取ろうとしている。
6月20日	漢文入門 訓読の基本 故事成語	2	①訓読の基本を理解し、我が国の言語文化の特質や外国の文化との関係を理解する。 ②文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える。 ③進んで漢文の特色や訓読のきまりを理解し、見通しを持って、古典を学ぶ意味について考えを持とうとしている。	2	①漢文の基本構造と句読点・送り仮名・書き下し文について理解している。 ②作品や文章の成立した背景を踏まえ、内容の解釈を深め、学習課題に取り組んでいる。 ③進んで訓読のきまりを理解し、学習課題に沿って、故事成語の元になった話を読み、故事成語の果たす役割について考えようとしている。
7月20日	随筆 『徒然草』亀山殿の御池に 詩歌 『折々のうた』	3	①我が国の言語文化に特徴的な語句や表現を理解し、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ②作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める。 ③作品の特色を理解し、学習課題に沿って、作品に込められたものの見方、感じ方、考え方を読み取ろうとしている。	3	①古典の世界に親しむために、文語のきまりや和歌の修辞などについて理解を深めている。 ②筆者の視点を通して、作品が成立した背景や内容の解釈を深め、学習課題に取り組んでいる。 ③進んで文語のきまりや和歌特有の表現を理解し、作品の主題を捉えようとしている。
10月20日	漢詩 絶句と律詩 「贈汪倫」 「春望」	4	①漢詩の形式ときまりを理解し、訓読する。 ②学習課題に沿って、漢詩に描かれた情景や心情を読み取り、作品に込められたものの見方、感じ方、考え方を読み取る。 ③漢詩に関する規則と特徴について復習し、漢詩の世界を読み味わおうとしている。		①唐という時代の特色、日本との関係などを理解している。 ②漢詩のきまりを確認しながら、学習課題に沿って作品の内容や情景、作者の思いをとらえ、解釈している。 ③進んで作品の歴史的・文化的背景や他の作品との関係を理解し、漢文が日本文学に与えた影響について考えようとしている。
11月20日	詩歌 柳あをめる 俳句 雪の深さを 詩 冬が来た	5	①韻文の形式やきまり、特徴や表現効果を理解する。 ②掲載されている短歌・俳句・詩について、学習課題に沿って、読解、鑑賞する。 ③進んで韻文の特徴や表現効果を理解し、それぞれの作品に込められた情景や心情を読み取ろうとしている。	4	①それぞれの作品の形式やきまり、特徴や表現効果を理解している。 ②作者や作品が成立した背景を踏まえて、それぞれの作品について理解を深め、解釈している。 ③進んで韻文の特徴や表現効果を理解し、それぞれの作品の主題を読み取ろうとしている。
12月20日	物語 『伊勢物語』 「芥川」	6	①作品のジャンルや古文の特徴的な表現、語彙について理解する。 ②本文の叙述から、「男」と「女」の人物像を課題に沿って理解する。 ③進んで歌物語の特徴や表現の仕方を理解し、内容を的確に捉えようとしている。		①歌物語の文学史的な系譜や特徴と『伊勢物語』の概要を理解している。 ②教科書に掲載されている「伊勢物語絵巻」と対照させながら本文の内容の理解を深め、「男」と「女」の心情の推移を読み取ることができている。 ③進んで古典を元にした絵画・工芸について理解し、古典文化への関心を拓けようとしている。

学校の教育目標	1 学習指導のさらなる充実 2 生徒の社会性の向上 3 保護者、家庭との連携強化 4 教職員の資質向上 5 学校運営の効率化（働き方改革）
---------	---

教科の目標	・日本語運用の知識・技能を高めることでより豊かな社会性を身に付けさせる。 ・古典の鑑賞を通して人生観や世界観を広げさせる。 ・小説や評論の読解を通して情操を豊かにするとともに思考力・判断力・表現力を養う。
-------	--

科目名		単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）		
文学国語		4	通信制・普通科・第4学年	標準 文学国語（第一学習社）		
科目の目標		(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2)深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
レポート 締切日	レポート内容	レポート 回数	レポートで育成する資質・能力 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	スクー リング 回数	学習活動 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	
5月20日	現代の小説(一) 『調律師のるみ子さん』	1	・「るみ子さん」の気持ちが変わる過程を、彼女の身の上で起こった出来事を通して読み取っている。② ・語句の意味や使い方を理解している。①	1	・「るみ子さん」の身の上で起こった出来事をまとめ、気持ちの変化を考える。③ ・辞書やスクーリングの解説を活用して、語句の意味や使い方を理解する。①	
6月10日	現代の小説(一) 『デューク』	2	・「少年」との交流による「私」の心理の変化と、デュークの死を受け入れるまでの過程を読み取っている。② ・語句の意味や使い方を理解している。①		・「私」と「少年」との交流の過程をまとめ、「私」の心情の変化を考える。③ ・辞書やスクーリングの解説を活用して、語句の意味や使い方を理解する。①	
6月30日	現代の詩 『そこにひとつの席が』 『食事』	3	・内容や構成、展開、場面設定や描写の仕方、表現の特色などを的確に捉えている。② ・詩の形式や技法を理解している。①	2	・それぞれの詩の解説を聞き、内容や構成、展開、場面設定や描写の仕方、表現の特色などを捉え、まとめる。② ・詩の形式や技法を理解する。①	
7月20日	現代の小説(二) 『ナイン』	4	・登場人物の発言から表に現れない心情を読み取り、それぞれの人間関係について把握している。② ・語句の意味や使い方を理解している。①		・登場人物の発言をまとめ、それぞれの人間関係を考える。③ ・辞書やスクーリングの解説を活用して、語句の意味や使い方を理解する。①	
8月20日	読書感想文を書くために	5	・原稿用紙の使い方を理解している。① ・本を読み、感想文を書くための素材を準備しようとしている。③	3	・解説や資料をもとに、原稿用紙のマスを適切に埋める。① ・様々な視点から、読後の感想をまとめるための素材を集める。③	
8月20日	読書感想文を書く	6	・原稿用紙の使い方を理解して、適切に使用している。① ・読み手に伝わるような表現を工夫して、読書感想文を書いている。②		・原稿用紙を適切に使用する。① ・効果的な表現を工夫して、文章を組み立てる。②	
9月10日	近代の小説(一) 『こころ』	7	・物語の展開と出来事を整理しながら、「私」と「K」それぞれの心情を把握している。② ・語句の意味や使い方を理解している。①	4	・出来事を順にまとめ、「私」と「K」の心情を考える。③ ・辞書やスクーリングの解説を活用して、語句の意味や使い方を理解する。①	
9月30日	現代の小説(二) 『相棒』	8	・時間の経過とともに登場人物の心情と行動に生じる変化を追い、題名にこめられた意味を捉えている。② ・語句の意味や使い方を理解している。①	5	・出来事を順にまとめ、登場人物の心情と行動の変化を考える。③ ・辞書やスクーリングの解説を活用して、語句の意味や使い方を理解する。①	
10月20日	近代の詩 『こころ』 『永訣の朝』	9	・詩の形式や特徴について理解を深めている。① ・それぞれの詩の心情を想像しながら味わっている。③		・解説や資料をもとに、詩の形式や特徴について、再確認する。① ・詩の心情を繰り返し読み味わう。③	
11月10日	現代の小説(四) 『ひよこの眼』	10	・表現に注意しながら場面の展開を読み取り、「私」の「幹生」に対する心情変化を捉えている。② ・語句の意味や使い方を理解している。①	6	・展開を追いながら、「私」の「幹生」に対する心情の変化を考える。③ ・辞書やスクーリングの解説を活用して、語句の意味や使い方を理解する。①	
11月30日	創作をする 『物語を発現する力』	11	・物語が人間にとって持つ意味を考え、言葉には想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。② ・語句の意味や使い方を理解している。①	7	・物語性の発現する事象を検証し、人間にとっての物語の意味を考える。③ ・辞書やスクーリングの解説を活用して、語句の意味や使い方を理解する。①	
12月20日	現代の小説(四) 『卒業』	12	・仕事に向き合う態度と友人への思いがどのように変化するかを捉え、主人公にとっての「卒業」の意味を考えている。② ・語句の意味や使い方を理解している。①	8	・主人公の気持ちの変化をまとめ、様々な「卒業」の意味を考える。③ ・辞書やスクーリングの解説を活用して、語句の意味や使い方を理解する。①	
レポートの計		12				

学校の教育目標	1 学習指導のさらなる充実 2 生徒の社会性の向上 3 保護者、家庭との連携強化 4 教職員の資質向上 5 学校運営の効率化(働き方改革)
---------	---

教科の目標	・日本語運用の知識・技能を高めることでより豊かな社会性を身に付けさせる。 ・古典の鑑賞を通して人生観や世界観を広げさせる。 ・小説や評論の読解を通して情操を豊かにするとともに思考力・判断力・表現力を養う。
-------	--

科目名		単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)		
国語表現		3	通信制・普通科・第2学年	国語表現(大修館書店)		
科目の目標		国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。				
レポート締切日	レポート内容	レポート回数	レポートで育成する資質・能力 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	スクーリング回数	学習活動 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	
5月20日	言葉と出会う(1) 言葉と表記 整った文を書く	1	・表記、漢字、係り受けなど正しい言葉の用い方を確認し、整った文章を書くための知識を身に付ける。① ・漢字、送り仮名、副詞の対応などについて、考えながら使いこなす。② ・解答を通して語彙を増やし、文を整えて書くことの理解を深める。③	1	・適切な言葉遣いや表記に関する知識を広げ、語感を磨き、語彙を豊かにする。① ・「書くこと」において、事象を的確に描写したり説明するための表現の仕方を工夫する。② ・正しい表記や語彙を豊かにし、文を整えて書く学習に対して積極的に取り組む。③	
6月20日	言葉と出会う(2) 相手に応じた言葉遣い わかりやすい文を書く 文のつなぎ方	2	・読点の打ち方や接続表現の種類や働きについての知識を身に付ける。① ・言葉のニュアンスを意識し、曖昧な表現を避けわかりやすい文で的確に自分の考えなどを表現する。② ・解答を通して相手に応じた言葉遣いや誤読を避けるための接続詞の働きなどの理解を深める。③		・書き言葉の特徴を理解し、目的に応じた適切な表現を使い分ける。① ・読み手に自分の考えが効果的に伝わるように、読点や接続表現の使い方を吟味し、全体を整えて表現する。② ・書き言葉の特徴や読点、接続詞の働きの学習に対して積極的に取り組む。③	
7月20日	表現を楽しむ エッセイを書こう	3	・楽しく読み手に伝えるために効果的な文体や構成、言葉の選び方を工夫する。① ・推敲を繰り返すことで、自分の文章の特長や課題を捉え直して、表現の幅を広げる。② ・エッセイを書くための話題を厳選し、読み手を楽しませるための趣向を凝らそうと意欲的に取り組む。③	2	・他の作品を参考にしながら、構成、文体、表現法などエッセイの基本を理解する。① ・構成メモを作成し、話題の展開とまとまりをを考える② ・エッセイを書く活動に興味を持ち、意欲的に取り組む。③	
8月20日	伝える、伝え合う 傾聴 絵や写真を見て書く 客観的に伝える	4	・説明の順序や5W1Hについて、理解し説明する。① ・伝える相手の反応に応じて言葉を選び、相手の同意や共感が得られる工夫をする。② ・解答を通して相手に伝わる適切な表現や説明法の理解を深める。③	3	・説明の順序、5W1H、比喻を用いた説明など、「伝える」ための知識を理解する。① ・「書くこと」において、伝えたい情報を整理し順序立てるなど、表現を工夫する。② ・「聞く」「話す」「伝え合う」ことの重要性を知り、積極的に対話活動に取り組む。③	
9月20日	小論文・レポート入門 小論文とは何か 文章や統計資料を読み取って書く レポートを書く	5	・小論文とは何かを考え、適切な構成や展開の仕方などの基本的な書き方を身に付ける。① ・課題文や統計資料の内容を正確に把握し、伝えたいことを明確に文章化する。② ・小論文の執筆に強い関心を持ち、基本的な構成を意欲的に学び取る。③	4	・小論文の特徴、構成や展開の仕方などについて、理解を深める。① ・「書くこと」において、適切な根拠を効果的に用いて論理の展開を考える。② ・小論文の特徴をふまえて、小論文を書くことに関心を持ち、意欲的に取り組む。③	
10月20日	自己PRと面接 効果的な自己PR 志望理由・自己推薦書を書く 面接にチャレンジ	6	・志望先と自分に関する事柄の中から適切な題材を集め、情報の組み合わせなどを工夫する。① ・志望先に提出することを具体的に想定して、自分の思いを文章の種類を選んで適切な表現する。② ・解答を通してより説得力のある書類を書くこと、話すことに意欲的に取り組む。③		・伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉使いを理解する。① ・社会的な話題や自己の将来像などを、自分の言葉で文章化する、話す。② ・進路先の情報を集め、説得力のある書類を書く、話す学習に意欲的に取り組む。③	
11月20日	メディアを駆使する 通信文を書き分ける ネット社会との付き合い方 メディアと情報	7	・教科書に挙げられているメディアの説明を読み、それぞれのメディアの特徴を理解する。① ・相手や目的に応じて適切な通信形態を選択し、その形式に従って情報や思いを伝える。② ・メディアとの付き合い方や情報との向き合い方について意欲的に学び取る。③	5	・様々なメディアの種類や特徴を知り、情報との向き合い方について理解する。① ・自分の思いや考えを伝えることにおいて、相手の共感が得られる表現を工夫する。② ・メディアを利用し情報を得ること、伝達することに関する学習に意欲的に取り組む。③	

12月20日	会話・議論・発表 相手や場面に応じた会話 建設的な議論の進め方 スピーチ、プレゼンテーション	8	・聞き取りやすい話し方や適切な言葉遣いについて理解し、目的や相手に応じて効果的な使い分けをする。① ・適切に情報を収集・整理し、相手に効果的に伝わるよう発表の内容や方法を検討する。② ・解答を通して効果的に伝えることや聞く姿勢を正しく理解しようと意欲的に取り組む。③	6	・伝え合う目的、場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解する。① ・他者との多様な交流を想定して情報を収集・整理し、伝え合う内容を検討する。② ・伝え合う意義を理解し、建設的な意見を交換する学習に意欲的に取り組む。③
1月20日	表現を楽しむ 言葉で遊ぶ	9	・それぞれの言葉遊びの多彩な表現の工夫を理解し、語彙を豊かにする。① ・創作のルールに従い、言葉遊びの中で意欲的に多彩な創作活動に取り組む。② ・教科書の作品例や周囲の作品を参考にしながら、自らの創作活動に熱心に取り組む。③		・自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語彙を豊かにする。① ・創作のルールに従い、必要な語句や表現を組み合わせる作品を創作する。② ・言葉遊びに取り組む意義を理解し、意欲的、主体的に創作活動に取り組む。③
レポートの計		9			

学校の教育目標	1 学習指導のさらなる充実 2 生徒の社会性の向上 3 保護者、家庭との連携強化 4 教職員の資質向上 5 学校運営の効率化（働き方改革）
---------	---

教科の目標	○日本語運用能力を高めることでより豊かな社会性を身に付けさせる。 ○古典の鑑賞を通して人生観や世界観を広げさせる。 ○小説や評論の読解を通して情操を豊かにするとともに思考力・判断力・表現力を養う。
-------	--

科目名		単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)	
古典探究		2	通信制・普通科・第3学年	標準古典探究(第一学習社)	
科目の目標		○生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ○論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などをとおした先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉をとおして他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
レポート 締切日	レポート内容	レポート 回数	レポートで育成する資質・能力 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	スクー リング 回数	学習活動 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」
5月20日	説話『古今著聞集』 「古式部の内侍が大江山の歌の事」	1	①語句の量を増やし語彙を豊かにする。文章に表れる表現の特色、主として和歌の修辞について理解を深める。 ②和歌にまつわる話を読み、説話として語り継がれた背景事情について理解する。 ③積極的に説話を読み、和歌を含んだ説話の特質について理解する。	1	①古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。 ②文章の種類を踏まえて、展開を的確に捉えている。 ③積極的に説話を読み、和歌を含んだ説話の特質について理解を深めようとしている。
6月20日	物語(一) 『竹取物語』 「かぐや姫の昇天」 『伊勢物語』 「初冠」	2	①語句の量を増やし語彙を豊かにする。作品や文章に表れる表現の特色について理解を深める。 ②伝奇的作り物語・歌物語という文章の特色や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 ③学習の見通しを持って平安初期の物語を読み、その特徴について理解を深める。		①古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。 ②文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ③平安時代の作り物語や歌物語を読み、その特徴について、理解を深めようとしている。
7月20日	随筆 『徒然草』 「よろずのことは頼むべからず」 『方丈記』 「ゆく川の流れ」	3	①語句の量を増やし、語彙を豊かにする。古典の作品や文章の種類とその特徴について理解する。 ②作者の鋭い観察眼をとおして綴られた、世の諸事象に関する随筆を読んで、ものの見方・考え方を深める。 ③作品に表れた無常観を読み取り、自分のものの見方・考え方を深める。	2	①古典の作品に表れている、言葉の響きやリズムなどの表現の特色について理解を深めている。 ②文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ③作品に表れた無常観を粘り強く読み取り、自分のものの見方、考え方を深めようとしている。
8月20日	故事・寓話 「画竜点睛」 「推敲」	4	①語句の量を増やし、語彙を豊かにする。訓読のきまりについて理解する。 ②故事・寓話という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉える。現在使われている言葉の由来となった漢文を読み、漢文が日本語に与えた影響について理解を深める。 ③故事成語の意味を進んで調べるとともに、漢文が日本語に与えた影響について考える。	3	①古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めている。 ②文章の種類を踏まえて構成や展開などを的確に捉えている。 ③故事成語の意味を進んで調査するとともに、その由来となった話を読んでわかった内容を説明しようとしている。
9月20日	和歌 『万葉集』 『古今和歌集』 『新古今和歌集』	5	①古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深める。和歌の修辞などの表現の特色について理解する。 ②わが国の伝統文化の一つである和歌の表現の特色を理解し、和歌を鑑賞する。和歌という文章の種類や古典特有の表現に注意して、内容を的確に捉える。 ③題詞や歌の背景を参考にしながら作品に表れている情景や心情を読み取り、和歌を積極的に鑑賞する。		①古典の作品に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現について理解を深めている。 ②文章の種類を踏まえて構成や展開などを的確に捉えている。 ③和歌の修辞技法を進んで理解し、学習の見通しをもって和歌文芸の特徴を捉えようとしている。
10月20日	漢詩 「絶句」 「峨眉山月歌」 「臨洞庭」	6	①漢詩の特徴について理解を深める。漢詩に表れる表現の特色について理解を深める。 ②漢詩の表現や技法への理解を深め、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いをとおして考えを広げる。漢詩特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 ③漢詩の表現や技法への理解を深めるとともに、作品にこめられた作者の思いをとおして自分の考えを広げる。	4	①古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めている。 ②文章の展開を踏まえて構成や展開などを的確に捉えている。 ③漢詩の表現や技法への理解を深めるとともに、作品にこめられた作者の思いを進んで読み取ろうとしている。
11月10日	物語(二) 『平家物語』 「能登殿の最期」	7	①語句の量を増やし、語彙を豊かにする。古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深める。我が国の文化の特質について理解を深める。 ②軍記物語という文章の種類や和漢混交文という古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。軍記物語を読んで、登場人物の行動とそれを支える思想や歴史的背景を理解し、考えを深める。 ③歴史的背景をふまえて『平家物語』を読み、学習の見通しをもって、和漢混交文の特色について理解を深める。		①古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。 ②作品の成立した背景を踏まえながら古典を読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ③軍記物語を思想的背景・歴史的背景に注意しながら読み、積極的に自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。。
11月30日	諸家の思想 『孟子』 「仁人心也」 『老子』 「柔弱」 『莊子』 「胡蝶之夢」 『韓非子』 「刻削之道」	8	①語句の量を増やし、語彙を豊かにする。訓読のきまりについて理解する。我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 ②諸家の思想を読み、古代中国思想について理解する。思想という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉える。それぞれの思想を述べた文章を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。 ③積極的に本文を読み、孟子・老子・莊子・韓非の主張や考え方をまとめる。	5	①古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めている。 ②文章の種類を踏まえて構成や展開などを的確に捉えている。 ③積極的に文章を読み、孟子・老子・莊子・韓非それぞれの見方や考え方をまとめ、説明しようとしている。
12月20日	日記 『紫式部日記』 「日本紀の御局」 『更級日記』 「門出」	9	①語句の量を増やし語彙を豊かにする。作品や文章に表れる表現の特色について理解を深める。 ②平安時代の日記文学という文章の特色や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 ③学習の見通しを持って作品を読み、作者の考えや意図をふまえて内容を的確に捉え、構成や表現の特色について積極的に評価する。	6	①古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めている。 ②文章の種類を踏まえて構成や展開などを的確に捉えている。 ③内容を的確に捉えるために、文語のきまりを理解し、積極的に説明しようとしている。
レポートの計		9			

学校の教育目標	1 学習指導のさらなる充実 2 生徒の社会性の向上 3 保護者、家庭との連携強化 4 教職員の資質向上 5 学校運営の効率化(働き方改革)
---------	---

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか(知識及び技能) ○理解していること・できることをどう使うか(思考力・判断力・表現力等) ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力・人間性等)
-------	--

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
地理総合	2	通信制・普通科・第1学年	高等学校新地理総合(帝国書院)
科目の目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり、解決したりする活動を通しての資質・能力を育成する。		

レポート 締切日	レポート内容	レポート 回数	レポートで育成する資質・能力 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	スクー リング 回数	学習活動 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」
5月20日	◎地図と地理情報 ・地球上の位置と時差 ・地図の役割と種類	1	・地図の役割と有効性を理解すること。① ・位置や分布に着目して地図やGISの活用方法について考える能力を養う。②③ ・以上の2点について、添削によって評価す	①	・位置や範囲、縮尺などに着目し、様々な地図の読図をする。①③ ・レポートに取り組み添削を受ける。②③
6月20日	◎結びつきを深める現代の世界 ・現代世界の国家と領域 ・グローバル化する世界	2	・国際社会における国家の役割を理解すること。① ・位置や分布に着目して地域間の様々な相互関係について考える。②③ ・以上の2点について、添削によって評価す	②	・現代世界の地域構成を示した様々な地図を読図する。① ・レポートに取り組み添削を受ける。②③
7月20日	◎生活文化の多様性と国際理解 ・世界の地形、気候、言語宗教、歴史的背景、産業と人々の生活	3	・場所や人間と自然の関わりなどに着目して、世界各地の生活文化の特徴を理解し、多様性の背景や変化の理由について考える。①②③ ・以上の2点について、添削によって評価す	③	・各地域の特徴を白地図にまとめる。①② ・レポートに取り組み添削を受ける。②③
10月20日	◎地球的課題と国際協力 ・地球環境問題、資源エネルギー問題、人口問題、食糧問題、都市居住問題	4	・他地域との結びつきや地域の特徴などに着目して、持続可能な社会をつくるために、今後どのような取り組みが必要か考える。 ・以上の5点について添削によって評価する。	③	・地球環境問題、資源エネルギー問題、人口問題、食糧問題、都市居住問題から一つを選び相互関係図を作成する。②③ ・レポートに取り組み添削を受ける。②
11月20日	◎自然環境と防災 ・日本の自然環境・地震津波と防災 ・気象災害と防災・火山災害と防災 ・自然災害の備	5	・日本は自然災害が多い国なので、自然環境の特徴を理解し自然災害に備えた対策を講じる力を養う。①②③ ・以上の3点について、添削によって評価す	④	・災害発生時の行動計画を作成する。②③ ・レポートに取り組み添削を受ける。②③
12月20日	◎生活圏の調査と地域の展望	6	・過疎や自然災害への対策を考え、持続可能な社会をつくるためにどのようなことに取り組みばよいかを考える。①②③ ・以上の点を添削によって評価する。	④	・現地調査の前には、どのように事前調査や調査計画をすればよいかをまとめる。②③ ・レポートに取り組み添削を受ける。②③
レポートの計		6			

学校の教育目標	1 学習指導のさらなる充実 2 生徒の社会性の向上 3 保護者、家庭との連携強化 4 教職員の資質向上 5 学校運営の効率化(働き方改革)
---------	---

教科の目標	○我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特徴を理解する。 ○国際社会に主体的に生き、平和で民主的な国家・社会を理解する。 ○地域・国家・社会及び国際社会において、日本人として必要な自覚と資質を養う。
-------	--

科目名		単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)		
世界史探究		3	通信制・普通科・第3学年	世界史探究(東京書籍)		
科目の目標		○世界の歴史の諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ○世界の歴史の展開に関わる事象の意味や特色などを、時期や年代、推移や現代世界との関連に着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。 ○世界の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚を深める。				
レポート締切日	レポート内容	レポート回数	レポートで育成する資質・能力 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	スクーリング回数	学習活動 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	
5月20日	○諸地域の歴史的特質 ・古代文明の出現 ・西アジアと地中海周辺	1	・各地域の誇大文明の間にはどのような共通点と相違点があるのだろうか。①② ・西アジアと地中海周辺の国家はどのように影響を及ぼし合ったのだろうか。また、そこで成立した宗教と現在の宗教分布はどのように関係しているのか①②③ ※以上の2点について、添削にて評価する。	1	・教科書及び学習書を参考にレポートを作成できたか。①② ・レポートの内容について、スクーリングで理解を深められたか。②③ ・レポート作成における疑問点を教員に質問できたか。③	
6月20日	○諸地域の歴史的特質 ・南アジア ・東アジアと中央ユーラシア ・アフリカ、オセアニア、古アメリカ	2	・南アジア地域における「多様ななかの統一」とは具体的にどのようなことなのだろうか。①②③ ・東アジアと中央ユーラシアの古代国家はどのように生まれたのだろうか。①② ・ユーラシア以外に成立した文明に何があるか。① ※以上の3点について、添削にて評価する。	2	・教科書及び学習書を参考にレポートを作成できたか。①② ・レポートの内容について、スクーリングで理解を深められたか。②③ ・レポート作成における疑問点を教員に質問できたか。③	
7月20日	○諸地域の交流と再編 ・イスラーム世界の拡大と繁栄 ・中世ヨーロッパ	3	・東西7,000kmにも及ぶアジア・アフリカの広大な地域が一つの文明圏としてまとまったのはなぜか。②③ ・9～15世紀にかけてのヨーロッパではどのような政治、経済、社会、文化の変動が起こったのか。①②	3	・教科書及び学習書を参考にレポートを作成できたか。①② ・レポートの内容について、スクーリングで理解を深められたか。②③ ・レポート作成における疑問点を教員に質問できたか。③	
8月20日	○諸地域の交流と再編 ・中華世界の変容とモンゴル帝国 ・大交易時代と世界の一体化	4	・広大な世界帝国であるモンゴル帝国はどのように生まれ、どのように世界をむすびつけたか。①② ・大交易時代に、なぜ、世界各地で社会が同時に変化したのだろうか。①②③ ※以上の2点について、添削にて評価する。	4	・教科書及び学習書を参考にレポートを作成できたか。①② ・レポートの内容について、スクーリングで理解を深められたか。②③ ・レポート作成における疑問点を教員に質問できたか。③	
9月20日	○諸地域の交流と再編 ・ユーラシア諸帝国の繁栄 ・主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大	5	・16～18世紀にアジア地域に成立した諸帝国が比較的安定した社会を維持できたのはなぜか。①②③ ・16～17世紀にヨーロッパに現れた新国家は、どのような特徴があったのだろうか。①② ※以上の2点について、添削にて評価する。	5	・教科書及び学習書を参考にレポートを作成できたか。①② ・レポートの内容について、スクーリングで理解を深められたか。②③ ・レポート作成における疑問点を教員に質問できたか。③	
10月20日	○一体化していく世界 ・国民国家と近代社会の形成 ・世界市場の形成とアジア諸国の変容	6	・18世紀半～19世紀半にかけて、欧米で産業革命や、国民参加の国家建設の動きが拡大した理由は。①② ・ヨーロッパ発の工業化の波はアジア諸国に何をもたらしたか。②③ ※以上の2点について、添削にて評価する。	6	・教科書及び学習書を参考にレポートを作成できたか。①② ・レポートの内容について、スクーリングで理解を深められたか。②③ ・レポート作成における疑問点を教員に質問できたか。③	
11月20日	○一体化していく世界 ・アジア・アフリカ諸国の統治再編と世界分割の進行 ・第一次世界大戦の展開と諸地域の変容	7	・アジア諸国は自国の危機をどのように認識し、欧米列強とどのように対峙したか。また、欧米諸国がアジア・アフリカに進出した背景は。①②③ ・第一次世界大戦は、それまでの戦争とどういう違いがあるか。②③ ※以上の2点について、添削にて評価する。	7	・教科書及び学習書を参考にレポートを作成できたか。①② ・レポートの内容について、スクーリングで理解を深められたか。②③ ・レポート作成における疑問点を教員に質問できたか。③	
12月20日	○一体化していく世界 ・国際協調体制の動揺と第二次世界大戦 ・第二次世界大戦と戦後の東アジア	8	・世界恐慌は経済や政治をどのように変化させたか。①② ・ファシズムの台頭が惹起した第二次世界大戦の推移は、戦後の国際秩序の再編にどのような影響を与えたか。②③ ・第二次世界大戦は、戦後のアジアにどのような影響を及ぼしたか。①③ ※以上の3点について、添削にて評価する。	8	・教科書及び学習書を参考にレポートを作成できたか。①② ・レポートの内容について、スクーリングで理解を深められたか。②③ ・レポート作成における疑問点を教員に質問できたか。③	
1月10日	○グローバル化と地域的課題 ・冷戦の世界化と国際制度 ・冷戦の変容・終結と経済のグローバル化 ・21世紀の地球的課題と人類社会	9	・冷戦のもとで、世界の平和はどのように模索されたか。①② ・冷戦の変容によりアメリカの経済覇権の動揺とその後の経済のグローバル化はどのように進んだか。②③ ・21世紀における地球的課題をこれから人類はどのように克服しようとしているのか。②③ ※以上の2点について、添削にて評価する。	9	・教科書及び学習書を参考にレポートを作成できたか。①② ・レポートの内容について、スクーリングで理解を深められたか。②③ ・レポート作成における疑問点を教員に質問できたか。③	
レポートの計		9				

学校の教育目標	1 学習指導のさらなる充実 2 生徒の社会性の向上 3 保護者、家庭との連携強化 4 教職員の資質向上 5 学校運営の効率化(働き方改革)
---------	---

教科の目標	○我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特徴を理解する。 ○国際社会に主体的に生き、平和で民主的な国家・社会を理解する。 ○地域・国家・社会及び国際社会において、日本人として必要な自覚と資質を養う。
-------	--

科目名		単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)	
日本史探究		3	通信制・普通科・第4学年	日本史探究(東京書籍)	
科目の目標		①「社会事象の歴史的な見方・考え方」に基づく学習活動の充実 ②「主題」や「問い」を中心に構成する学習の展開 ③単元や内容のまとまりを重視した学習の展開 ④「歴史の解釈、説明、論述」を通じた知識、概念の深い理解と「思考力・判断力・表現力等」の育成の一層の重視 ⑤資料を活用し、歴史の学び方を習得する学習 ⑥歴史的経緯をふまえた現代の日本の課題の探究			
レポート締切日	レポート内容	レポート回数	レポートで育成する資質・能力 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	スクーリング回数	学習活動 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」
5月20日	第1編 先史・古代の日本と東アジア 第1章 先史社会の生活と文化 第2章 歴史資料と先史・古代の展望 第3章 古代社会の形成と展開 1節 律令国家の形成と古代文化の展開	1	・旧石器時代の日本について、諸資料から適切かつ効果的に読み取り、理解している。① ・狩猟採集社会から農耕社会への変化などに着目して、水稻耕作がどのように広まり、どのような影響を及ぼしたのか② ・律令国家の形成と古代文化の展開の学習について振り返り、調整しようとしている。③ 以上の3点について、添削にて評価する。	1	・教科書及び学習書を参考にレポートを作成できたか。①② ・レポートの内容について、スクーリングで理解を深められたか。②③ ・レポート作成における疑問点を教員に質問できたか。③
6月20日	2節 摂関政治と貴族文化	2	・貴族政治の展開、平安期の文化、地方支配の変化や武士の出現などを基に、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べる① ・摂関政治と貴族文化の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。③ 以上の2点について、添削にて評価する。	2	・教科書及び学習書を参考にレポートを作成できたか。①② ・レポートの内容について、スクーリングで理解を深められたか。②③ ・レポート作成における疑問点を教員に質問できたか。③
7月20日	第2編 中世の日本と世界 第1章 中世社会の成立 第2章 歴史資料と中世の展望 第3章 中世社会の展開 1節 武家政権の成立と朝廷	3	・摂関政治はそれまでの政治のあり方とどのように異なり、地方社会にどのような影響をおよぼしたのだろうか② 諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、律令体制の再編と変容、古代の社会と文化の変容について理解している。① ・中世の日本と世界の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとする態度を養う。③ 以上の3点について、添削にて評価する。	3	・教科書及び学習書を参考にレポートを作成できたか。①② ・レポートの内容について、スクーリングで理解を深められたか。②③ ・レポート作成における疑問点を教員に質問できたか。③
8月20日	2節 武家支配の広がり と国際交流 第3編 近世の日本と世界 第1章 近世社会の形成 第2章 歴史資料と近世の展望	4	・古代から中世への時代の転換を理解している。① ・織豊政権による諸政策の目的や意義について、諸資料から適切かつ効果的に読み取り、理解している。① ・歴史資料の特性をふまえ、資料を通して読み取れるか② ・中世の日本と世界に関わる諸事象について見通しをもって学習に取り組もうとしているか③ 以上3点について、添削評価する。	3・4	・教科書及び学習書を参考にレポートを作成できたか。①② ・レポートの内容について、スクーリングで理解を深められたか。②③ ・レポート作成における疑問点を教員に質問できたか。③
9月20日	第3章 近世社会の展開 1節 幕藩体制の確立	5	・百姓たちの生活世界に関する資料から近世を生きた人々の生活に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付けているか。① ・江戸時代の対外関係に関する資料を通して読み取れる。② ・近世の日本と世界の学習の見通しをもって、近世の特色について明らかにしようとしているか。③ 以上の3点について、添削にて評価する。	4	・教科書及び学習書を参考にレポートを作成できたか。①② ・レポートの内容について、スクーリングで理解を深められたか。②③ ・レポート作成における疑問点を教員に質問できたか。③
10月20日	2節 近世社会の成熟と幕藩体制の動	6	・諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、幕藩体制の確立、近世の社会と文化の特色について理解している。① ・徳川吉宗は、なぜ享保の改革をおしすすめたのだろうか」などの課題について、社会・経済のしくみの変化などに着目して考察し、その結果を表現している。② ・幕藩体制の確立の学習について振り返り、調整しようとしている。③ 以上の3点について、添削にて評価する。	5	・教科書及び学習書を参考にレポートを作成できたか。①② ・レポートの内容について、スクーリングで理解を深められたか。②③ ・レポート作成における疑問点を教員に質問できたか。③
11月20日	第4編 近現代の地域・日本と世界 第1章 近代社会の幕開け	7	・列強の東アジア進出や日本の開国と開港、それらが国内に及ぼした影響などについて、諸資料から適切かつ効果的に読み取り、理解している。① ・欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化、政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、近世から近代の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現している。② 以上の2点について、添削にて評価する。	5	・教科書及び学習書を参考にレポートを作成できたか。①② ・レポートの内容について、スクーリングで理解を深められたか。②③ ・レポート作成における疑問点を教員に質問できたか。③
12月20日	第2章 歴史資料と近現代の展望 第3章 近現代社会の展開 1節 近代的制度の導入と新しい国際関係 2節 国民国家と資本主義の成立 3節 両大戦間期の日本 4節 第二次世界大戦と日本	8	・明治維新、文明開化の風潮、学問の発展や教育制度の拡充、自由民権運動などを基に、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、近代的制度の導入、アジアや欧米諸国との関係を理解している。① ・「明治初期の諸改革は、近世社会のしくみをどのように変えたのだろうか」などの課題について、地域社会の変化などに着目して考察し、その結果を表現している。② ・近現代の地域・日本と世界に関わる諸事象について見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。③ 以上の3点について、添削にて評価する。	6	・教科書及び学習書を参考にレポートを作成できたか。①② ・レポートの内容について、スクーリングで理解を深められたか。②③ ・レポート作成における疑問点を教員に質問できたか。③
1月10日	5節 占領と改革 6節 国際社会への復帰と高度経済成長 7節 アジア情勢の変化と経済大国日本 8節 新しい国際秩序と日本の課題 第4章 現代の日本の課題の探求	9	・占領政策と諸改革、日本国憲法の成立、戦後の経済復興などを基に、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、我が国の再出発及びその後の政治・経済や対外関係を理解している。① ・第二次世界大戦前後の政治や社会の類似と相違、国民の生活や地域社会の変化などに着目して、主題を設定し、戦前と戦後の国家・社会の変容、戦後政治の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。② 「占領と改革」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。③	6	・教科書及び学習書を参考にレポートを作成できたか。①② ・レポートの内容について、スクーリングで理解を深められたか。②③ ・レポート作成における疑問点を教員に質問できたか。③
レポートの計		9			

学校の教育目標	1 学習指導のさらなる充実 2 生徒の社会性の向上 3 保護者、家庭との連携強化 4 教職員の資質向上 5 学校運営の効率化(働き方改革)
---------	---

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか(知識及び技能) ○理解していること・できることをどう使うか(思考力、判断力、表現力等) ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等)
-------	--

科目名		単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)	
公共		2	通信制・普通科・第1学年	公 共(東京書籍)	
科目の目標		○自分たちが社会に参画する自立した主体として様々な集団の一員として生き、他者と協働して「公共的空間」をつくる存在であることを学ばせる。 ○政治・法・経済・職業生活・国際社会の知識を修得させ、各分野に関わる現代の諸課題を考え、自分の見解を表現できるようにする。 ○持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりを担う、公共の精神を持った自立した主体に向けて、現代の諸課題を探究する力を身に付けさせる。			
レポート締切日	レポート内容	レポート回数	レポートで育成する資質・能力 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	スクーリング回数	学習活動 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」
5月20日	・公共的な空間をつくる私たち ・公共的な空間における人間としての在り方生き方 ・公共的な空間における基本的原理	1	・公共的な空間を認識できたか。① ・公共的な空間の認識を人間としての在り方生き方の考察に活かせたか。②③ ・民主主義、立憲主義、人権保障を理解できたか。① ・以上の3点について、添削にて評価する。	①	・教科書及び学習書を参考にレポートを作成する。①② ・レポートの内容について、スクーリングで理解を深める。②③ ・レポートにおいて理解できなかった箇所について教員に助言を求める③
6月20日	・民主政治と政治参加	2	・社会生活の中での政治の役割を理解できたか。① ・地域社会の課題を解決するために、自分たちができることを考察できたか。②③ ・国会及び内閣のしくみと役割を理解できたか。① ・政党・利益集団・マスメディアの民主政治における役割を考察できたか。①② ・以上の4点について、添削にて評価する。	①	・教科書及び学習書を参考にレポートを作成する。①② ・レポートの内容について、スクーリングで理解を深める。②③ ・レポートにおいて理解できなかった箇所について教員に助言を求める③
7月20日	・法の働きと私たち	3	・法と裁判の関係を理解できたか。① ・私法の役割を認識することができたか。① ・多様な契約を理解し、消費者としての行動を考えることができたか。②③ ・司法の役割を理解できたか。① ・社会秩序の維持の重要性を認識できたか。①② ・以上の5点について、添削にて評価する。	②	・教科書及び学習書を参考にレポートを作成する。①② ・レポートの内容について、スクーリングで理解を深める。②③ ・レポートにおいて理解できなかった箇所について教員に助言を求める③
10月20日	・経済社会で生きる私たち	4	・市場経済のしくみを理解できたか。① ・国民所得と経済成長を理解できたか。① ・金融のしくみと働きの大切さを認識できたか。① ・様々な金融商品の長所と短所を認識できたか。① ・財政の働きを理解し、その課題を考察できたか。②③ ・社会保障を理解し、その課題を考察できたか。②③ ・以上の6点について、添削にて評価する。	③	・教科書及び学習書を参考にレポートを作成する。①② ・レポートの内容について、スクーリングで理解を深める。②③ ・レポートにおいて理解できなかった箇所について教員に助言を求める③
11月20日	・私たちの職業生活	5	・職業選択の重要性を認識できたか。① ・労働者の権利を理解できたか。① ・雇用・労働問題への関心を持つことができたか。②③ ・以上の3点について、添削にて評価する。	④	・教科書及び学習書を参考にレポートを作成する。①② ・レポートの内容について、スクーリングで理解を深める。②③ ・レポートにおいて理解できなかった箇所について教員に助言を求める③
12月20日	・国際社会のなかで生きる私たち	6	・国際社会の成り立ちを理解できたか。① ・国際連合の役割を理解できたか。① ・日本の平和主義と冷戦・冷戦後の世界の関わりを考察できたか。② ・これからの日本の国際貢献の在り方を考察できたか。②③ ・貿易の果たす役割を理解できたか。① ・国際経済秩序の重要性を認識できたか。① ・以上の6点について、添削にて評価する。	④	・教科書及び学習書を参考にレポートを作成する。①② ・レポートの内容について、スクーリングで理解を深める。②③ ・レポートにおいて理解できなかった箇所について教員に助言を求める③
レポートの計		6			

学校の教育目標	1 学習指導のさらなる充実 2 生徒の社会性の向上 3 保護者、家庭との連携強化 4 教職員の資質向上 5 学校運営の効率化(働き方改革)
---------	---

教科の目標	○広い視野に立って、現代の社会について主体的に理解する。 ○現代社会の諸問題を考察し、人間としての在り方・生き方についての自覚を育む。 ○平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。
-------	--

科目名		単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)	
政治・経済		2	通信制・普通科・第4学年	政治経済(東京書籍)	
科目の目標		○現代の政治・経済、国際関係について客観的に理解するとともに、現実の情勢を主体的に探究する態度を身につける。 ○現代経済のしくみを基礎的な経済理論の観点から理解するとともに、国民経済の動向及び、政府の役割と日本経済が抱える課題などについて理解する。 ○国際社会の現状と諸課題について理解し、国際社会に生きる日本の役割について考察する。			
レポート締切日	レポート内容	レポート回数	レポートで育成する資質・能力 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	スクーリング回数	学習活動 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」
5月20日	・民主政治の基本原理 ・日本国憲法の基本原理 ・日本の政治機構 ・現代社会の特質と課題	1	・社会契約説は政府と国民の関係をどのように捉えているのかを理解する。① ・日本国憲法はどのような考え方のもとに成り立っているかを考える力を養う。② ・日本の政治機構にはどのような課題があり、どうすればそれを解決できるかを考える力を養う。② ・以上の3点について、添削によって評価する。	①	・よりよい民主政治を実現するためには、どのようなことが必要なのかを考察する。② ・日本国憲法は現在の日本においてどのような役割をはたしているのかを考察する。② ・レポートの内容について、スクーリングで理解を深め、レポートに取り組む。③
6月20日	・現代の資本主義経済 ・現代経済のしくみ ・日本経済の発展と現状	2	・資本主義は、どのような特徴を持ち、どのような過程を経て成立したかを理解する。① ・現代の経済はどのようなしくみで、どのような課題を抱えているのかを考える力を養う。②③ 経済復興から高度経済成長の終焉まで、日本経済はどのような過程をたどってきたのか理解する。① ・以上の3点について、添削によって評価する。	①	・資本主義経済はなぜ、今日の世界経済において主流になったのかを考察する。② ・戦後の日本経済は世界経済の影響を受けながら、どのような変遷をたどってきたかを考察する。② ・レポートの内容について、スクーリングで理解を深め、レポートに取り組む。③
7月20日	・公害と環境保全 ・農業食糧問題 ・消費者問題 ・社会保障と福祉 ・現代日本の諸課題	3	・公害はなぜ発生するのか理解し、また、公害を防止するためには、どのような方法があるか理解する。①② ・消費者問題はなぜ発生し、また消費者保護のためにどのような施策が行われているかを考える力を養う。①②③ ・日本の社会保障制度はどのような特徴を持ち、どのような課題を抱えているのかを理解する。①② ・以上の3点について、添削によって評価する。	②	・公害や環境問題の現状を調べ、自分たちがどう行動すべきかをまとめる。①②③ ・日本の社会保障制度の現状を調べ、少子高齢化が進む中での負担と給付の在り方についてまとめる。①②③ ・レポートの内容について、スクーリングで理解を深め、レポートに取り組む。③
10月20日	・国際政治の特質 ・国際社会と国際法 ・国際連合の役割と課題 ・戦後国際関係の展開と日本	4	・国際社会のどのように形成され、どのような特徴を持っているのか理解する。① ・第二次世界大戦後の国際関係は、どのような状況だったか理解する。① ・日本はどのようにして国際社会に復帰し、どのような立場で行動したかを考える力を養う。②③ ・以上の3点について添削によって評価する。	③	・国際社会における利害解決はどのように行われているか考察する。② ・国際対立や地域紛争を解決し、平和を実現するにはどうすれば良いか考察する。②③ ・レポートの内容について、スクーリングで理解を深め、レポートに取り組む。③
11月20日	・冷戦後の国際関係と日本 ・地域主義の動き ・軍縮の動向と課題 ・戦争・難民・テロリズム ・国際社会における日本の役割	5	・冷戦終結後の国際関係はどのように変化したのかを理解する。①② ・現在、国際社会はどのような課題を抱えているのかを考える力を養う。② ・軍縮をめぐる動向は現在どのようになっているのかを理解する。① ・以上の3点について添削によって評価する。	④	・日本は国際平和や安全保障のためにどのように行動していくべきかを考察する。② ・日本は唯一の核被爆国として、軍縮に向けてどのように取り組むべきかをまとめる。②③ ・レポートの内容について、スクーリングで理解を深め、レポートに取り組む。③
12月20日	・貿易と国際収支 ・戦後国際経済体制の展開 ・発展途上国の経済 ・グローバル化する世界経済 ・資源・エネルギー問題 ・人口・貧困・感染症	6	・現代の国際通貨体制は、どのような変遷をたどって形成されたのかを理解する。① ・国際社会は南北問題の解消にどのように取り組んできたのかを理解する。① ・経済のグローバル化は、どのように進展してきたのかを考える力を養う。①② ・以上の3点について添削によって評価する。	④	・世界の人々のより豊かな生活を実現するためにはどうすればよいのかを考察する。② ・地球規模の課題について、私たちはどのように対処したらよいかをまとめる。②③ ・レポートの内容について、スクーリングで理解を深め、レポートに取り組む。③

学校の教育目標	1 学習指導のさらなる充実 2 生徒の社会性の向上 3 保護者、家庭との連携強化 4 教職員の資質向上 5 学校運営の効率化（働き方改革）
---------	--

教科の目標	○基礎基本の定着と早く正しく計算（知識及び技能） ○定理や公式を正しく理解して、適切な方法で立式や計算・グラフを書いたりする（思考力、判断力、表現力等） ○身近な事象との数学の係わりや他の教科との関係を踏まえ、数学の大切を涵養する（学びに向かう力、人間性等）
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
数学 I	4	通信制・普通科・第1学年	新数学 I（第一学習社）

科目の目標	・基本的内容の理解と確認 ・基本的な計算能力の涵養 ・2次関数のグラフが書け、最大・最小を求められる ・三角比を用いて、身近な角や辺の長さを求められる ・命題について正しく理解し、身近なことを考察できる
-------	---

レポート 締切日	レポート内容	レポート 回数	スクー リング回 数	レポートで育成する資質・能力 ＜評価規準・評価方法＞	学習活動
5月8日	・中学校の復習 ・式の展開	1	①	・中学校までの基本的な計算ルールの確認と定着 ・計算に粘り強く取り組み、正しく計算が出来るている	・スクーリングでのオリエンテーション ・必要に応じて小学校の内容も復習しながら、様々な計算から基本的な展開まで、レポートに取り組む
5月14日	・文字式の加減 ・文字式の乗除	2	①	・文字式の意味を正しく理解する ・文字式の四則演算が出来るようになる	・スクーリングでは、文字式の意味と計算のポイントを学力に応じて指導 ・早く正しく文字式が計算できるようにレポートに取り組む
6月10日	・単項式のかけ算 ・式の展開	3	②	・指数を間違えなく、公式を用いて単項式の計算が出来るようになる ・式の式の展開が正確に出来るようになる	・スクーリングでは、基礎から徐々に複雑な展開を理解する ・様々な展開の問題をレポートで取り組む
6月30日	・方程式	4	③	・移行や代入を用いて、色々な1次方程式や連立方程式を解けるようになる ・方程式を見て、問題の解き方の見通しが立つようになる	・スクーリングでは、必要に応じて移行や代入・加減法を復習 ・方向性を持って、様々な方程式を解く
7月20日	・因数分解 ・2次方程式	5	④	・因数分解が定着する ・因数分解を用いて、様々な解の2次方程式の正しい解を求められる	・スクーリングでは、中学校の内容から因数分解の復習 ・因数分解と2次方程式の各種問題に取り組む
8月25日	・命題 ・データの分析 ・課題学習	6	⑤	・命題か否か、命題の真偽、命題の否定、命題の逆・裏・対偶の意味を理解し、適切な言葉で表現できる ・度数分布表やヒストグラムを理解し、平均値	・命題が国語的な内容であること、データの見方や代表値の求め方を説明 ・命題の否定や対偶、度数分布表やヒストグラムも、しっかり取り組む
9月30日	・座標平面 ・関数のグラフ	7	⑥	・座標平面の見方や用語を正しく理解し、必要に応じて座標平面に点を取って、グラフが書けるようになる	・生徒によっては、基礎から座標平面を復習して、座標を読んだり点を取る。 ・必要な点を座標平面にとって、グラフを書く
11月5日	・2次関数のグラフ I	8	⑦	・表を用いて様々な2次関数のグラフを滑らかな曲線で書けるようになる ・2次関数の軸や頂点を求められるようになる	・スクーリングでは、グラフを書くための表の書き方から復習する ・必要な点を求めてグラフを書き、頂点や軸を求めていく
11月20日	・2次関数のグラフ II ・2時間数の最大・最小	9	⑧	・表を作らなくても、式の形から頂点や軸を求めることによって、2次関数のグラフが書けるようになる ・2次関数の最大値と最小値を求められる	・スクーリングは、前回の復習をしながら、表を用いなくて、グラフを書くこと ・グラフから2次関数の最大値と最小値を求める
12月7日	・正接 ・課題学習	10	⑨	・直角三角形で正接を用いて、辺の長さを求めることができる ・直角三角形から正接の値を求められるようになる	・建物や山の高さといった身近な内容から、三角比への関心や興味をもつように、スクーリングを行う ・正接に慣れる
12月20日	・正弦 ・余弦	11	⑩	・直角三角形から、正弦と余弦の値を求められるようになる ・三角比の表の見方がわかる	・三平方の定理を復習する ・正弦と余弦、正接の覚え方を伝授する ・三角比の表を用いて、三角比の値から角度を求める
1月8日	・鋭角の三角形 ・三角形の面積	12	⑩	・30°、45°、60°の正弦・余弦・正接の値を求められるようになる ・正弦を用いて、三角形の面積を求められる	・スクーリングで三角定規を使って、辺の長さの比を復習する ・忘れずに約分して、三角比の値を求める
レポートの計		12			

学校の教育目標	1 学習指導のさらなる充実 2 生徒の社会性の向上 3 保護者、家庭との連携強化 4 教職員の資質向上 5 学校運営の効率化(働き方改革)
---------	---

教科の目標	○基礎基本の定着と早く正しく計算(知識及び技能) ○定理や公式を正しく理解して、適切な方法で立式や計算・グラフを書いたりする(思考力、判断力、表現力等) ○身近な事象との数学の係わりや他の教科との関係を踏まえ、数学の大切を涵養する(学びに向かう力、人間性等)
-------	---

科目名		単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)		
数学Ⅱ(前半)		2	通信制・普通科・第2学年	新数学Ⅱ(東京書籍)		
科目の目標		・基本的内容を理解し、確認する。 ・基本的な計算能力を養う。 ・いろいろな式、図形と方程式、三角関数の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 ・数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 ・粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				
レポート締切日	レポート内容	レポート回数	レポートで育成する資質・能力 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	スクーリング回数	学習活動 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	
5月8日	・分数式とその計算	1	・分数式とその約分、わり算、かけ算について理解し、また通分、たし算、ひき算についても理解し、計算ができる能力①② ・虚数単位を理解するとともに、数を実数から複素数に広げることに関心をもち、従来解けなかった2次方程式にも解があることを理解する能力①②	①	・オリエンテーション、前期・後期のテスト範囲の配布等を行う。 ・分数の通分してからの計算や、約分なども最初に確認する①。複素数の演繹や、解の公式を用いての2つの解を求める②③	
6月15日	・2次方程式の解と係数の関係 ・高次方程式	2	・2次方程式の解と係数の間に成り立つ関係について興味をもって調べ、2次方程式への理解を深める能力①②。 ・高次方程式について理解し、因数分解、因数定理を用いて高次方程式を解くことができる能力①②③	②	・整式の除法を学んだうえで、因数定理を用いて3次方程式の解を求める①②③ ・3次方程式、4次方程式において、因数定理を用いなくて済むパターンで計算する①②③	
7月15日	・座標と直線の方程式	3	・数直線上や平面上の2点間の距離を求められ、また、線分の内分・外分の意味を理解し、内分点・外分点の座標を求めることができる能力①②③ ・直線の傾きと切片について理解し、1点と傾きや、2点が与えられたときの直線の方程式を求めることができる能力①②	③	・三平方の定理を用いて、平面上の2点間の距離を導き出し、内分点の公式も導き出す①②③ ・傾きがわかった上で、通る点が与えられたときの直線の方程式を求める①	
10月20日	・円の方程式 ・不等式の表す領域 ・課題学習	4	・与えられた条件から円の方程式を求めたり、円の方程式から円の中心の座標と半径を求めたりすることができる能力①。円と直線の共有点の座標を求めることができる能力①② ・不等式が表す領域を図示したり、領域を不等式に表したりすることができる能力①② ・今回の知識を使った上での課題学習に取り組む姿勢・態度①②③	④	・円の方程式の成り立つ意味について考え、中心、半径を出すとともに、逆に方程式も出せるようにする① ・不等式の表す領域を求めるとともに、図から不等式や連立不等式を求める①②	
11月20日	・三角関数 ・三角関数の相互関係	5	・角の概念を一般角まで拡張することについて理解する能力① ・三角関数の定義を理解し、一般角の三角関数の値を求めることができ、また、相互関係により他の三角関数も求めることができる能力・態度①②③	⑤	・角の動径を図示できるようにする① ・一般角の三角関数の値を求められ、相互関係から残りの三角関数も求める①②	
12月20日	・三角関数のグラフ ・加法定理 ・弧度法	6	・三角関数の加法定理を理解し、それらを用いて三角関数の値を求めることができる能力①② ・弧度法の意味を理解し、度数法から弧度法へ、またその逆もできる能力①	⑥	・三角関数のグラフの特徴を理解し、そのグラフをかけるようにする① ・三角関数の加法定理を理解し、それらを用いて今までの知識を用いて、三角関数の値を求める①②③	
レポートの計		6				

学校の教育目標	1 学習指導のさらなる充実 2 生徒の社会性の向上 3 保護者、家庭との連携強化 4 教職員の資質向上 5 学校運営の効率化（働き方改革）
---------	---

教科の目標	○基礎基本の定着と早く正しく計算（知識及び技能） ○定理や公式を正しく理解して、適切な方法で立式や計算・グラフを書いたりする（思考力、判断力、表現力等） ○身近な事象との数学の係わりや他の教科との関係を踏まえ、数学の大切を涵養する（学びに向かう力、人間性等）
-------	---

科目名		単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)	
数学Ⅱ(後半)		2	通信制・普通科・第3学年	新数学Ⅱ(東京書籍)	
科目の目標		・指数関数・対数関数および微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 ・様々な事象を数学的に表現・処理する技能を身に着ける。 ・等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力を身に付ける。 ・座標平面上の図形についてを論理的に考察したりする力を身に付ける。 ・関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力を身に付けている。 ・関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付ける。			
レポート締切日	レポート内容	レポート回数	レポートで育成する資質・能力 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	スクーリング回数	学習活動 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」
5月30日	・整数の指数 ・累乗根 ・分数の指数 ・指数関数とそのグラフ指数関数	1	・指数の範囲を整数全体に拡張した指数法則について理解し、指数法則を用いて計算することができる。① ・累乗根の意味を理解し、簡単な計算をすることができる。① ・指数の範囲を分数に拡張した指数法則について理解し、指数法則を用いて計算することができる。② ・指数関数の定義とそのグラフの性質を理解し、指数関数のグラフをかくことができる。② ・レポートの内容から、重要と考える項目をまとめることができる。③	①	・年間を通した面接日・レポート提出目安日・テスト範囲・受験資格などを理解する。 ・整数へ拡張した指数法則を用いて、計算することができる。① ・累乗根の計算をすることができる。① ・分数を指数とする累乗について理解し、計算することができる。② ・指数関数のグラフをかくことでその性質をまとめることができる。② ・レポートの内容を、自分の言葉でまとめることができる。③
6月30日	・指数関数の利用 ・対数の性質	2	・指数方程式を解くことができる。② ・対数の意味を理解し、簡単な対数の値を求めることができる。① ① ・対数の性質を理解し、それを用いて対数方程式や対数の計算をすることができる。② ・レポートの内容から、重要と考える項目をまとめることができる。③	②	・指数関数を含む方程式を解くことができる。② ・指数と対数の置き換えができる。① ・対数方程式を説くことができる。② ・対数の計算ができる。② ・レポートの内容を、自分の言葉でまとめることができる。③
7月30日	・対数関数とそのグラフ ・対数方程式 ・常用対数	3	・対数関数の定義とそのグラフの性質を理解し、対数関数のグラフをかいたり、大小比較をしたりすることができる。② ・常用対数の意味と常用対数表の使い方を理解することができる。② ② ・常用対数を用いて整数の累乗の桁数を求めることができる。③ ・レポートの内容から、重要と考える項目をまとめることができる。③	③	・対数関数のグラフをかき、その性質をまとめることができる。② ・対数関数の大小を比較することができる。② ・常用対数表を用いて、対数の値を求めることができる。② ・整数の累乗の桁数を求めることができる。③ ・レポートの内容を、自分の言葉でまとめることができる。③
10月25日	・平均変化率 ・微分係数 ・導関数	4	・関数の平均変化率が曲線上の2点を通る直線の傾きに等しいことを理解し、平均変化率を求めることができる。② ・極限值や微分係数の意味を理解し、計算できる。① ・微分係数を定義に基づいて求めることができる。② ・導関数の意味を理解する。② ・簡単な導関数の計算ができる。①② ・レポートの内容から、重要と考える項目をまとめることができる。③	④	・関数の値を計算できる。①②・レポートの内容を、自分の言葉でまとめることができる。③ ・関数の平均変化率を求め、その違いを考察できる。② ・極限值を求めることができる。① ・微分係数を定義に基づいて求めることができる。② ・平均変化率を限りなく0に近づけるときの2+hの値の変化について考察することができる。② ・簡単な導関数が計算できる。① ・レポートの内容を、自分の言葉でまとめることができる。③
11月25日	・導関数の計算 ・接線の方程式 ・導関数の応用 ・課題学習	5	・簡単な導関数の計算ができる。また、導関数を利用して、微分係数を求めることができる。① ・曲線上のある点における接線の方程式を求めることができる。また、与えられた曲線の方程式から曲線上のある点における接線の方程式を求めることができる。② ・導関数の符号を利用して、関数の増減を調べることができる。② ② ・関数の極大・極小の意味を理解し、極大値・極小値を求めたり、そのグラフをかいたりすることができる。② ・増減表とグラフの関係について理解を深めることができる。③ ・レポートの内容から、重要と考える項目をまとめることができる。③	⑤	・簡単な導関数の計算と、それを利用して微分係数を求めることができる。① ・曲線上のある点における接線の方程式を求めることができる。② ・増減表を作成し、グラフをかくことができる。 ② ・関数の極大値・極小値を増減表に書くことができる。② ・増減表とグラフの関係をより深く理解できるようになる。③ ・レポートの内容を、自分の言葉でまとめることができる。③
12月22日	・不定積分 ・定積分 ・面積	6	・不定積分の意味を理解することができる。② ・公式を用いて不定積分を求めることができる。① ・定積分の意味を理解し、公式を用いて定積分を求めることができる。① ① ・定積分を利用して、直線や曲線で囲まれた図形の面積を求めることができる。③ ・レポートの内容から、重要と考える項目をまとめることができる。③	⑥	・微分から不定積分を理解することができる。② ・公式を用いた不定積分ができる。① ・公式を用いて定積分を求めることができる。① ・定積分を利用して、直線や曲線で囲まれた図形の面積を求めることができる。③ ・レポートの内容を、自分の言葉でまとめることができる。③
レポートの計		6			

学校の教育目標	1 学習指導のさらなる充実 2 生徒の社会性の向上 3 保護者、家庭との連携強化 4 教職員の資質向上 5 学校運営の効率化(働き方改革)
---------	---

教科の目標	○基礎基本の定着と早く正しく計算(知識及び技能) ○定理や公式を正しく理解して、適切な方法で立式や計算・グラフを書いたりする(思考力、判断力、表現力等) ○身近な事象との数学の係わりや他の教科との関係を踏まえ、数学の大切を涵養する(学びに向かう力、人間性等)
-------	---

科目名		単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)		
数学A		2	通信制・普通科・第4学年	新数学A(東京書籍)		
科目の目標		・基本的内容を理解する。 ・基本的な計算能力を養う。 ・図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 ・図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力を養う。 ・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。				
レポート 締切日	レポート内容	レポート 回数	レポートで育成する資質・能力 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	スクー リング 回数	学習活動 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	
	・集合 ・集合の要素の個数 ・個数の数え方 ・和の法則と積の法則	1	・部分集合、全体集合、補集合、共通部分、和集合などの集合の表し方、用語、記号を、図を用いて理解し、記号を使って表す能力①	①	・部分集合、全体集合、補集合、共通部分、和集合などの集合の表し方、用語、記号を、図を用いて理解し、記号を使って表すことができる。①	
	・順列 ・順列の利用 ・確率の計算	2	・条件のついた順列の総数を求める能力② ・順列の考え方をいろいろな場面に利用する態度③ ・確率を求める能力①	②	・順列の考えを用いて、条件のついた順列の総数を求めることができる。②③ ・場合の数をもとに、確率を求めることができる。①	
	・直線と角 ・多角形の角 ・三角形の合同と相似 ・基本の作図 ・円周角の定理 ・円に内接する四角形	3	・多角形の内角、外角の性質についての知識① ・四角形が円に内接するかどうか判断する能力②	③	・多角形の内角、外角の性質を利用して角の大きさを求めることができる。① ・四角形が円に内接する条件を利用し、内接するかどうか判断することができる。①②	
	・接線と弦のつくる角 ・方べきの定理	4	・接線と弦のつくる角の定理を利用して、角の大きさを求める能力①② ・円と2本の直線がつくる線分の長さの関係を考察する態度③	④	・接線と弦のつくる角の定理を利用して、角の大きさを求めることができる。① ・円と2本の直線がつくる線分の長さの関係を考察し、長さを求めることができる。②③	
	・数の表し方のしくみ ・2進法 ・約数と倍数	5	・10進法、2進法の数の表し方のしくみを調べ、法則を見つけようとする態度①③ ・約数、倍数を求めたり、素因数分解したりする能力①②	⑤	・10進法、2進法の数の表し方のしくみを調べ、法則を見つけることができる。①③ ・約数、倍数を求めたり、素因数分解したりすることができる。①②	
	・最大公約数と最小公倍数 ・ユークリッドの互除法	6	・素因数分解を利用して最大公約数、最小公倍数を求める能力①② ・ユークリッドの互除法を用いて2つの正の整数の最大公約数を求める能力①②	⑥	・素因数分解を利用して最大公約数、最小公倍数を求めることができる。① ・ユークリッドの互除法を用いて2つの正の整数の最大公約数を求めることができる。①②	
レポートの計		6				

学校の教育目標	1 学習指導のさらなる充実 2 生徒の社会性の向上 3 保護者、家庭との連携強化 4 教職員の資質向上 5 学校運営の効率化(働き方改革)
---------	---

教科の目標	○自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実権などに関する技能を身につけるようにする。 ○観察、実権などを行い、科学的に探究する力を養う。 ○自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
-------	--

科目名		単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)	
科学と人間生活		2	通信制・普通科・第1学年	科学と人間生活(東京書籍)	
科目の目標		(1)自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、 実験などに関する技能を身につけるようにする。 (2)観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。 (3)自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。			
レポート 締切日	レポート内容	レポート 回数	レポートで育成する資質・能力 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	スクー リング 回数	学習活動 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」
6月9日	微生物とその利用	1	・発酵や腐敗が微生物のはたらきによって起こることを理解する①② ・身のまわりの発酵食品には酵母, カビ, 細菌などの微生物が関わっていることを理解する①	1・2	・身のまわりの微生物の存在を知る① ・発酵食品がつくられることを学習する② ・糖を分解する発酵の仕組みを学習する
7月10日	材料とその再利用	2	・資源の再利用と3Rについて理解する① ・金属の性質とその再利用について理解する① ・プラスチックの性質とその再利用について理解する①	3・4	・各用語の確認①③ ・銅、鉄、アルミニウムの製法について学習する②③ ・縮合重合、付加重合について学習する
8月10日	光の性質とその利用	3	・光の進み方とその見え方について理解する①② ・光の波としての性質について理解する① ・色の見え方について、実習に意欲的に取り組み、考えることができる①②③	5・6	・身近な現象の実験を観察しながら、レポート3回目の内容について学習する①② ・簡易分光器製作実習②③
10月13日	熱の性質とその利用	4	・熱運動について理解する① ・セルシウス温度と絶対温度の関係について理解する①② ・比熱の計算について理解する①② ・エネルギーの変換及び熱効率について理解する	7・8	・各用語の確認①③ ・セルシウス温度を絶対温度に、絶対温度をセルシウス温度に変換する練習②③ ・比熱の計算の練習②③
11月17日	太陽と地球	5	・地球・太陽・月の関係について図示できる①② ・太陽の活動について説明する。①② ・地球上の大気循環について理解する①	9・10	・身近な現象と関連させながら、レポート5回目の内容について学する。①② ・月の満ち欠けについて学習する①③ ・太陽の活動について学習する①②
12月15日	自然環境と自然災害	6	・プレートテクトニクスについて理解する① ・地表の景観は常に変化し続けており、長い時間をかけて少しずつ移り変わることについての理解を深める①② ・自然災害と防災について考える①②③	11・12	・身近な現象と関連させながら、レポート6回目の内容について学習する①② ・液状化のモデル実験を行う②③ ・自然災害に対する防災のための取り組みについて、さらに、科学技術の重要性と限界について学習する①②
レポートの計		6			

学校の教育目標	1 学習指導のさらなる充実 2 生徒の社会性の向上 3 保護者、家庭との連携強化 4 教職員の資質向上 5 学校運営の効率化(働き方改革)
---------	--

教科の目標	○自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実権などに関する技能を身につけるようにする。 ○観察、実権などを行い、科学的に探究する力を養う。 ○自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
-------	--

科目名		単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)		
化学基礎		2	通信制・普通科・第4学年	新編化学基礎(東京書籍)		
科目の目標		(1)日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけるようにする。 (2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3)物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。				
レポート締切日	レポート内容	レポート回数	レポートで育成する資質・能力 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	スクーリング回数	学習活動 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	
6月9日	○物質の成分と構成元素 ○原子の構造 ○電子配置と周期表	1	・物質の分類と、物質の分離方法について理解する① ・物質の構成元素についての理解と定着①② ・物質の三態と、その例について確認① ・原子の構造、電位配置と周期表について理解する①	1・2	・スクーリングでのオリエンテーション ・物質の分離方法等について、実験を観察しながらレポートに取り組む①② ・原子構造や電子配置・周期表等について、レポートに取り組む①②	
7月10日	○化学結合	2	・イオンとイオン結合について理解する① ・分子と共有結合について理解する① ・金属と金属結合について理解する①	3・4	・イオンのでき方や、イオン式や組成式について、かき方等を練習する①②③ ・分子式、共有結合について、スライド等の説明を参考にレポートに取り組む①② ・金属の性質と金属結合について、スライド等の説明を参考にレポートに取り組む①②	
8月10日	○原子量・分子量・式量 ○物質質量 ○溶液の濃度	3	・原子量・分子量・式量について理解する① ・物質質量について理解する① ・溶液の濃度について理解する①	5・6	・原子量を用いた分子量・式量を求め方を練習する①②③ ・物質質量から質量、気体の体積の求め方を練習する①②③ ・パーセント濃度、モル濃度の求め方を練習する①②③	
10月13日	○化学反応の表し方 ○化学反応式の表す量的関係	4	・化学反応の書き方について理解する① ・化学反応式の表す量的関係について理解する①	7・8	・化学反応式の立て方、係数の付け方を練習する①②③ ・化学反応式を用いる、反応物・生成物の質量、発生する気体の体積の求め方を練習する①②③	
11月17日	○酸と塩基 ○水素イオン濃度とpH ○中和反応・中和滴定	5	・酸と塩基について理解する① ・水素イオン濃度とpHについて理解する① ・中和反応と中和滴定について理解する①②	9・10	・各々の性質についてまとめる① ・pH試験紙を用いて、身近な物質の性質について調べる①②③ ・中和滴定のデータから、濃度を求める①②	
12月15日	○酸化と還元 ○金属の酸化還元反応 ○酸化還元反応の応用	6	・酸化と還元について理解する① ・金属の陽イオンになりやすさについてまとめる①② ・電池について理解する①	11・12	・各々の違いについてまとめる① ・金属によってイオン化傾向の違いがある事を観察する①③ ・身近な電池について説明できる①②③	
レポートの計		6				

学校の教育目標	1 学習指導のさらなる充実 2 生徒の社会性の向上 3 保護者、家庭との連携強化 4 教職員の資質向上 5 学校運営の効率化(働き方改革)
---------	---

教科の目標	○自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実権などに関する技能を身につけるようにする。 ○観察、実権などを行い、科学的に探究する力を養う。 ○自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
-------	--

科目名		単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)		
生物基礎		2	通信制・普通科・第2学年	新編生物基礎(東京書籍)		
科目の目標		(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。				
レポート締切日	レポート内容	レポート回数	レポートで育成する資質・能力 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	スクーリング回数	学習活動 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	
6月9日	・生物の特徴 ・原核細胞と真核細胞の違い ・ATPの構造 ・酵素のはたらき ・呼吸と光合成 ・顕微鏡の使い方	1	・生物は共通の特徴をもつことを理解する① ・細胞の構造について理解する①② ・ATPにエネルギーが蓄えられることを理解する② ・マイクロメーターで細胞の大きさを測定できる②③	1・2	・生物の持つ基本的な特徴を学習する①② ・原核細胞と真核細胞の違いを学習する② ・顕微鏡の使い方とマイクロメーターの使い方が出来るようになる①②③	
7月10日	・DNAの構造 ・細胞分裂 ・塩基の相補性 ・DNAの抽出 ・塩基の並び方 ・ゲノム	2	・DNAの構造について、学習した用語を振り返る① ・細胞分裂でDNAが等しく分配することを理解する② ・DNAは塩基の相補性で2本鎖構造なのを理解する② ・ゲノム自体を理解しDNAの抽出の仕方が分かる③	3・4	・DNA二重らせん構造の特徴を学習する①② ・細胞周期の概要を学習する①② ・シャルガフの規則から塩基の割合を計算する①② ・バナナからDNAの抽出をする①③	
8月10日	・DNAからタンパク質へ ・DNAの構造とRNAの構造の違い ・転写と翻訳 ・遺伝暗号表	3	・セントラルドグマを図で理解し、遺伝子の発現につながることを理解する①② ・DNAの構造とRNAの構造の違いを理解する①② ・DNAの塩基配列からの転写・翻訳を理解する①②③	5・6	・DNAの遺伝情報によるタンパク質合成を学習する①② ・RNAとDNAの違いを学習する①② ・転写と翻訳の過程について学習する①② ・遺伝暗号表が使えるようになる②③	
10月13日	人の体を調節するしくみ 体内環境 神経系による情報伝達 内分泌系による情報伝達 血糖濃度の調節	4	・神経系と内分泌系による調節について、情報の伝達のことを理解する。① ・神経系と内分泌系による調節について探究し、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだして表現する②	7・8	実体験をもとに、暑いときや寒いときに身体に起きる反応等について考えさせ、それらの反応がどのような役割を果たしているのかを考える。② 運動の前後の呼吸数や脈拍数の変化を観察する。③	
11月17日	免疫のはたらき 免疫のしくみ 免疫の応用 免疫とさまざまな疾患	5	免疫について、免疫のはたらきの基本的な概念を理解する。①② アレルギー、自己免疫疾患、AIDSなどの疾患のメカニズムを理解する。①②	9・10	自身が病気にかかった経験を思い出させる。②③ はしか等には2度はかからないことや、インフルエンザや新型コロナウイルスに対するワクチンのしくみ等について学習する。①	
12月15日	生物の多様性と生態系 植生と遷移 生態系と生物の多様性	6	植生とその遷移の過程・要因について理解する。① さまざまな地域の気候と植生の関係を調べ、バイオームが遷移を経て成立していることを見いだして理解する。② 生態系のバランスと人為的攪乱を関連づけて理解する。②③	11・12	生態系と生物の多様性、ならびに生態系のバランスと保全について考える。①② 身近な植物の葉から種の同定を試みたり、樹木の共通性や多様性を考える。②③	
レポートの計		6				

学校の教育目標		1 学習指導のさらなる充実 2 生徒の社会性の向上 3 保護者、家庭との連携強化 4 教職員の資質向上 5 学校運営の効率化（働き方改革）			
教科の目標		○自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実権などに関する技能を身につけるようにする。 ○観察、実権などを行い、科学的に探究する力を養う。 ○自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。			
科目名		単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）	
地学基礎		2	通信制・普通科・第3学年	地学基礎（東京書籍）	
科目の目標		(1) 自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につけるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。 (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。			
レポート締切日	レポート内容	レポート回数	レポートで育成する資質・能力 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	スクーリング回数	学習活動 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」
6月9日	大地とその動き	1	・地球の構造について理解する①② ・地球内部の動きについて理解する①② ・大地形の形成と地質構造について理解する①② ・変成岩と変成作用について理解する①②③	1・2	・スクーリングについてのオリエンテーション ・先人がどのようにして地球の形を理解したのかについて考える③ ・地球内部の仕組みを学習する② ・地殻内部の構造について考える③
7月10日	火山活動と地震	2	・火山噴火の仕組みについて理解する① ・火山の分布について理解する① ・火成岩について理解する① ・地震の発生について理解する①②	3・4	・溶岩の粘性による地形の違いについて考える①②③ ・プレートと火山の分布について学習する②③ ・地震波と地震の揺れについて学習する①② ・地震のメカニズムについて考える②③
8月10日	私たちの空と海	3	・地球大気の構造について理解する①② ・地球の大気で起こる現象について理解する① ・地球の熱収支について考える①②③ ・大気や海流の流れについて理解する①② ・大気の大循環について理解する①② ・大気と海洋の相互作用について理解する①	5・6	・身近な現象と関連させながら、レポート3回目の内容について学習する①③ ・大気圧について考える②③ ・温室効果について考える①③ ・大気の大循環について理解する①② ・大気と海洋の相互作用について学習する①
10月13日	私たちの宇宙の誕生	4	・宇宙の誕生について理解する① ・銀河と天の川銀河について理解する①② ・太陽系の誕生について理解する①② ・太陽の特徴について理解する① ・地球の特徴について理解する①	7・8	・各用語の確認①③ ・ビックバンと宇宙の誕生について学習する①② ・太陽系の始まりについて学習する①② ・惑星の誕生について学習する①② ・太陽・地球の特徴について学習する①②
11月17日	私たちの地球の歴史	5	・地層の形成について理解する①② ・地層からわかる情報について考える①③ ・古生物の変遷と地球環境について理解する①②	9・10	・地層のでき方について学習する①③ ・離れた地層の堆肥について学習する①② ・地球史について学習する①②
12月15日	地球に生きる私たち	6	・日本の自然環境の特徴について理解する① ・自然災害と防災について考える①②③ ・自然環境の変動について学習する①② ・これからの地球環境について学習する①②	11・12	・身近な現象と関連させながら、レポート6回目の内容について学習する①② ・液状化のモデル実験を行う②③ ・自然災害に対する防災のための取り組みについて、さらに、科学技術の重要性和限界について学習する①②
レポートの計		6			

学校の教育目標	1 学習指導のさらなる充実 2 生徒の社会性の向上 3 保護者、家庭との連携強化 4 教職員の資質向上 5 学校運営の効率化(働き方改革)
---------	---

教科の目標	○心と体を一体として捉え、生涯に渡って心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。 ○運動の特性における技能等及び社会生活における健康安全について理解し、技能を身につける。 ○運動や健康について課題を発見し、解決に向けた思考判断とともに、他者に伝える力を養う。 ○生涯に渡り運動に親しみ、健康の保持増進と体力の向上を目指し、活力ある生活を営む態度を養う。
-------	---

科目名		単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)	
体育1		2	通信制・普通科・第1学年	現代 高等保健体育（大修館）	
科目の目標		運動の喜びを味わい、継続することができるようになるため、必要性を理解するとともにそれらの技能を身につけるようにする。課題に発見と思考判断、他者に伝える力を養う。運動における競争や協働の経験を通して参画する、公正、協力等の意欲を育てるとともに健康・安全を確保し、生涯に渡って継続して運動に親しむ態度を養う。「体育1」においては、今日まで学校の教育活動に参加していなかったかもしれない、または仕事中心の生活で習慣的な運動をしてこなかったかもしれないという前提で、自らの現在の体調を認識すること、可能な範囲で動かせる身体部を活動させる、日常生活で少しでも運動することを意識させる事を目標とする。			
レポート 締切日	レポート内容	レポート 回数	レポートで育成する資質・能力 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	スクー リング 回数	学習活動 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」
6月1日	・スポーツの始まりと発展 ・バレーボール6人制(調べ学習)	1	・学習に取り組む意欲③ ・教科書等をきちんと読み込み、レポートへ反映させる。② ・説明文や用語解説まで目を通させる。①	1	・オリエンテーション 活動時の約束事の確認 年間の概要の説明
9月1日	・世界の民族スポーツについて調べてみよう。～ ・日本生まれのスポーツ ・バスケットボール(調べ学習)	2	・学習に取り組む意欲③ ・教科書等をきちんと読み込み、レポートへ反映させる。② ・説明文や用語解説まで目を通させる。①	2	面接指導（導入時、以下に関連した指導） ・各自の日常生活の振り返り② ・運動と日常生活の関わり② 運動の実践
12月1日	・競技スポーツにおける競争の意味～ ・パラリンピックの課題 ・陸上競技(調べ学習)	3	・学習に取り組む意欲③ ・教科書等をきちんと読み込み、レポートへ反映させる。② ・説明文や用語解説まで目を通させる。①	3	・自身の身体状況を勘案し、どの程度活動するか確認させる③ ・無理のない活動 ・日常的な身体活動のない者への注意喚起
				4	・以下の3種目において活動する。① 「テニス」「バドミントン」「卓球」 ・3種目に偏りがないようにローテーションで実践する
				5	・あくまで面接指導なので、一般的な単元計画のような段階的な技能の向上や課題の解決に向けた活動としてはおこなわない② ・毎回、その時々初めて参加した生徒を
				6	対象にしたように指導する ・必要とされる面接時間数の確保を推奨する③ ・雨天時には、武道等に変更することもある
				7	以上を繰り返し、必要面接時数10時限をクリアできるよう推奨する③
				8	
				9	
				10	・現時点での、面接時数の確認 ・残り開催回数数の確認 ・「継続」資格を得るための条件を確認 ・試験に備えた学習のポイント指導
				11	以上を繰り返す 上記内容にて、引き続き面接指導を継続する ・「知識・技能」としては、基本的な実践ができる事を求める①
				12	・「思考・判断・表現」では、各種目において今ある能力を発揮しようとしている事、上達しようとして取り組む事を求める②
				13	・「主体的に学習に取り組む態度」では、期限内のレポート提出と学んでいることを日常生活に取り入れる、スクーリングで発現することを求める③

学校の教育目標	1 学習指導のさらなる充実 2 生徒の社会性の向上 3 保護者、家庭との連携強化 4 教職員の資質向上 5 学校運営の効率化(働き方改革)
---------	---

教科の目標	○心と体を一体として捉え、生涯に渡って心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。 ○運動の特性における技能等及び社会生活における健康安全について理解し、技能を身につける。 ○運動や健康について課題を発見し、解決に向けた思考判断とともに、他者に伝える力を養う。 ○生涯に渡り運動に親しみ、健康の保持増進と体力の向上を目指し、活力ある生活を営む態度を養う。
-------	---

科目名		単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)	
体育2		2	通信制・普通科・第2学年	現代 高等保健体育（大修館）	
科目の目標		運動の喜びを味わい、継続することができるようにするため、必要性を理解するとともにそれらの技能を身につけるようにする。課題に発見と思考判断、他者に伝える力を養う。運動における競争や協働の経験を通して参画する、公正、協力等の意欲を育てるとともに健康・安全を確保し、生涯に渡って継続して運動に親しむ態度を養う。「体育2」においては、転編入生徒も在籍する前提を忘れずに、今日まで学校の教育活動に参加していなかったかもしれない、または仕事中心の生活で習慣的な運動をしてこなかったかもしれないという状況を想定し、自らの現在の体調を認識すること、可能な範囲で動かせる身体部を活動させる、日常生活で少しでも運動することを意識させる事を目標とする。			
レポート締切日	レポート内容	レポート回数	レポートで育成する資質・能力 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	スクーリング回数	学習活動 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」
6月1日	・スポーツが経済に及ぼす効果～ ・なぜドーピングは許されないのか	1	・学習に取り組む意欲③ ・教科書等をきちんと読み込み、レポートへ反映させる。② ・説明文や用語解説まで目を通させる。① ・適切な用語や説明文で答えられること。②	1	・オリエンテーション 活動時の約束事の確認 年間の概要の説明
9月1日	・スポーツと環境 ～ ・スポーツにおける技術と戦術 ・水泳(調べ学習)	2	・学習に取り組む意欲③ ・教科書等をきちんと読み込み、レポートへ反映させる。② ・説明文や用語解説まで目を通させる。① ・適切な用語や説明文で答えられること。②	2	面接指導（導入時、以下に関連した指導） ・各自の日常生活の振り返り② ・運動と日常生活の関わり② 運動の実践
12月1日	・技能の上達課程と練習 ～ ・球技における戦術の特徴を比較してみよう。 ・ソフトボール(調べ学習)	3	・学習に取り組む意欲③ ・教科書等をきちんと読み込み、レポートへ反映させる。② ・説明文や用語解説まで目を通させる。① ・適切な用語や説明文で答えられること。②	3	・自身の身体状況を勘案し、どの程度活動するか確認させる③ ・無理のない活動 ・日常的な身体活動のない者への注意喚起
				4	・以下の3種目において活動する。① 「テニス」「バドミントン」「卓球」 ・3種目に偏りがないようにローテーションで実践する
				5	・あくまで面接指導なので、一般的な単元計画のような段階的な技能の向上や課題の解決に向けた活動としてはおこなわない② ・毎回、その時々初めて参加した生徒を
				6	対象にしたように指導する ・必要とされる面接時間数の確保を推奨する③ ・雨天時には、武道等に変更することもある
				7	以上を繰り返し、必要面接時数10時限をクリアできるよう推奨する③
				8	
				9	
				10	・現時点での、面接時数の確認 ・残り開催回数の確認 ・「継続」資格を得るための条件を確認 ・試験に備えた学習のポイント指導
				11	以上を繰り返す 上記内容にて、引き続き面接指導を継続する ・「知識・技能」としては、基本的な実践が、できる事を求める①

				12	・「思考・判断・表現」では、各種目において今ある能力を発揮しようとしている事、上達しようとして取り組む事を求める②
				13	・「主体的に学習に取り組む態度」では、期限内のレポート提出と学んでいることを日常生活に取り入れる、スクーリングで発現することを求める③
レポートの計		3			

学校の教育目標	1 学習指導のさらなる充実 2 生徒の社会性の向上 3 保護者、家庭との連携強化 4 教職員の資質向上 5 学校運営の効率化(働き方改革)
---------	---

教科の目標	○心と体を一体として捉え、生涯に渡って心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。 ○運動の特性における技能等及び社会生活における健康安全について理解し、技能を身につける。 ○運動や健康について課題を発見し、解決に向けた思考判断とともに、他者に伝える力を養う。 ○生涯に渡り運動に親しみ、健康の保持増進と体力の向上を目指し、活力ある生活を営む態度を養う。
-------	---

科目名		単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)	
体育3		2	通信制・普通科・第3学年	現代 高等保健体育（大修館）	
科目の目標		運動の喜びを味わい、継続することができるようにするため、必要性を理解するとともにそれらの技能を身につけるようにする。課題に発見と思考判断、他者に伝える力を養う。運動における競争や協働の経験を通して参画する、公正、協力等の意欲を育てるとともに健康・安全を確保し、生涯に渡って継続して運動に親しむ態度を養う。「体育3」においては、転編入生徒も在籍する前提を忘れずに、今日まで学校の教育活動に参加していなかったかもしれない、または仕事中心の生活で習慣的な運動をしてこなかったかもしれないという状況を想定し、自らの現在の体調を認識すること、可能な範囲で動かせる身体部を活動させる、日常生活で少しでも運動することを意識させる事を目標とする。			
レポート締切日	レポート内容	レポート回数	レポートで育成する資質・能力 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	スクーリング回数	学習活動 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」
6月1日	・効果的な動きのメカニズム ・運動・スポーツと脳 ・動きと力	1	・学習に取り組む意欲③ ・教科書等をきちんと読み込み、レポートへ反映させる。② ・説明文や用語解説まで目を通させる。① ・適切な用語や説明文で答えられること。②	1	・オリエンテーション 活動時の約束事の確認 年間の概要の説明
9月1日	・体カトレーニング ・調整力・柔軟性のトレーニング ・筋カトレーニング	2	・学習に取り組む意欲③ ・教科書等をきちんと読み込み、レポートへ反映させる。② ・説明文や用語解説まで目を通させる。① ・適切な用語や説明文で答えられること。②	2	面接指導（導入時、以下に関連した指導） ・各自の日常生活の振り返り② ・運動と日常生活の関わり② 運動の実践
11月1日	・運動やスポーツでの安全の確保 ・運動やスポーツで起こるけが・事故 ・運動・スポーツでのけが・事故の予防	3	・学習に取り組む意欲③ ・教科書等をきちんと読み込み、レポートへ反映させる。② ・説明文や用語解説まで目を通させる。① ・適切な用語や説明文で答えられること。②	3	・自身の身体状況を勘案し、どの程度活動するか確認させる③ ・無理のない活動 ・日常的な身体活動のない者への注意喚起
				4	・以下の3種目において活動する。① 「テニス」「バドミントン」「卓球」 ・3種目に偏りがないようにローテーションで実践する
				5	・あくまで面接指導なので、一般的な単元計画のような段階的な技能の向上や課題の解決に向けた活動としてはおこなわない② ・毎回、その時々初めて参加した生徒を
				6	対象にしたように指導する ・必要とされる面接時間数の確保を推奨する③
				7	・雨天時には、武道等に変更することもある
				8	以上を繰り返し、必要面接時数10時限をクリアできるよう推奨する③
				9	
				10	・現時点での、面接時数の確認 ・残り開催回数の確認 ・「継続」資格を得るための条件を確認 ・試験に備えた学習のポイント指導
				11	以上を繰り返し 上記内容にて、引き続き面接指導を継続する ・「知識・技能」としては、基本的な実践が、できる事を求める①
				12	・「思考・判断・表現」では、各種目において今ある能力を発揮しようとしている事、上達しようとして取り組む事を求める②
				13	・「主体的に学習に取り組む態度」では、期限内のレポート提出と学んでいることを日常生活に取り入れる、スクーリングで発現することを求める③
レポートの計		3			

学校の教育目標	1 学習指導のさらなる充実 2 生徒の社会性の向上 3 保護者、家庭との連携強化 4 教職員の資質向上 5 学校運営の効率化(働き方改革)
---------	---

教科の目標	○心と体を一体として捉え、生涯に渡って心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。 ○運動の特性における技能等及び社会生活における健康安全について理解し、技能を身につける。 ○運動や健康について課題を発見し、解決に向けた思考判断とともに、他者に伝える力を養う。 ○生涯に渡り運動に親しみ、健康の保持増進と体力の向上を目指し、活力ある生活を営む態度を養う。
-------	---

科目名		単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)	
体育4		1	通信制・普通科・第4学年	現代 高等保健体育（大修館）	
科目の目標		運動の喜びを味わい、継続することができるようにするため、必要性を理解するとともにそれらの技能を身につけるようにする。課題に発見と思考判断、他者に伝える力を養う。運動における競争や協働の経験を通して参画する、公正、協力等の意欲を育てるとともに健康・安全を確保し、生涯に渡って継続して運動に親しむ態度を養う。「体育4」においては、転編入生徒も在籍する前提を忘れずに、今日まで学校の教育活動に参加していなかったかもしれない、または仕事中心の生活で習慣的な運動をしてこなかったかもしれないという状況を想定し、自らの現在の体調を認識すること、可能な範囲で動かせる身体部を活動させる、日常生活で少しでも運動することを意識させる事を目標とする。			
レポート 締切日	レポート内容	レポート 回数	レポートで育成する資質・能力 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	スクー リング 回数	学習活動 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」
6月1日	・生涯スポーツの見方・考え方 ・ライフスタイルに応じたスポーツ	1	・学習に取り組む意欲③ ・教科書等をきちんと読み込み、レポートへ反映させる。② ・説明文や用語解説まで目を通させる。① ・適切な用語や説明文で答えられること。②	1	・オリエンテーション 活動時の約束事の確認 年間の概要の説明
11月1日	・スポーツを推進する取り組み ・豊かなスポーツライフの創造	2	・学習に取り組む意欲③ ・教科書等をきちんと読み込み、レポートへ反映させる。② ・説明文や用語解説まで目を通させる。① ・適切な用語や説明文で答えられること。②	2	面接指導（導入時、以下に関連した指導） ・各自の日常生活の振り返り② ・運動と日常生活の関わり② 運動の実践
				3	・自身の身体状況を勘案し、どの程度活動するか確認させる③ ・無理のない活動 ・日常的な身体活動のない者への注意喚起
				4	・以下の3種目において活動する。① 「テニス」「バドミントン」「卓球」 ・3種目に偏りがないようにローテーションで実践する
				5	・あくまで面接指導なので、一般的な単元計画のような段階的な技能の向上や課題の解決に向けた活動としてはおこなわない② ・毎回、その時々初めて参加した生徒を対象にしたように指導する
				6	・必要とされる面接時間数の確保を推奨する③ ・雨天時には、武道等に変更することもあ
				7	以上を繰り返し、必要面接時数10時限をクリアできるよう推奨する③
レポートの計		2			

学校の教育目標	1 学習指導のさらなる充実 2 生徒の社会性の向上 3 保護者、家庭との連携強化 4 教職員の資質向上 5 学校運営の効率化(働き方改革)
---------	---

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか(知識及び技能) ○理解していること・できることをどう使うか(思考力、判断力、表現力等) ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等)
-------	--

科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)
保健		1	通信制・普通科・第1学年		現代高等保健体育(大修館書店)
科目の目標		保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。 (1)個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 (2)健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な課題に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える能力を養う。 (3)障害を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。			
レポート締切日	レポート内容	レポート回数	スクーリング回数	レポートで育成する資質・能力 ＜評価規準・評価方法＞	学習活動
7月1日	・健康の考え方と成り立ち ・私たちの健康のすがた ・生活習慣病の予防と回復 ・がんの原因と予防 ・運動・休養・睡眠と健康 ・喫煙・飲酒・薬物乱用と健康	1	0	・学習に取り組む意欲 ・教科書等をきちんと読み込み、レポートへ反映させる。 ・説明文や用語解説まで目を通させる。 ＜適切な用語や説明文で答えられること。＞	・現代社会と健康について、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法をし行使判断できることを求める。 (知識・技能・思考・判断・表現力)
10月1日	・精神疾患の特徴 ・精神疾患の予防 ・精神疾患からの回復 ・現代の感染症 ・感染症の予防 ・性感染症・エイズとその予防 ・健康に関する意思決定・行動選択 ・健康に関する環境づくり	1	0	・学習に取り組む意欲 ・教科書等をきちんと読み込み、レポートへ反映させる。 ・説明文や用語解説まで目を通させる。 ＜適切な用語や説明文で答えられること。＞	・安全な社会生活については、環境の整備と個人の取り組みが実践と、傷害や疾病の悪化を軽減する行動を求める。(主体的に学習に取り組む態度)
12月1日	・事故の現状と発生要因 ・安全な社会の形成 ・交通における安全 ・応急手当の意義とその基本 ・日常的な応急手当 ・心肺蘇生法	1	1	・学習に取り組む意欲 ・教科書等をきちんと読み込み、レポートへ反映させる。 ・説明文や用語解説まで目を通させる。 ＜適切な用語や説明文で答えられること。＞	・面接指導(前半)の内容について一斉指導をする ・心肺蘇生法(知識・技能)をダミーを使用しての実技指導をする ・心肺蘇生の方法が手順とうりに実践できることを求める。危険の予測やその回
レポートの計		3			

学校の教育目標	1 学習指導のさらなる充実 2 生徒の社会性の向上 3 保護者、家庭との連携強化 4 教職員の資質向上 5 学校運営の効率化(働き方改革)
---------	---

教科の目標	○心と体を一体として捉え、生涯に渡って心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。 ○運動の特性における技能等及び社会生活における健康安全について理解し、技能を身につける。 ○運動や健康について課題を発見し、解決に向けた思考判断とともに、他者に伝える力を養う。 ○生涯に渡り運動に親しみ、健康の保持増進と体力の向上を目指し、活力ある生活を営む態度を養う。
-------	---

科目名		単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)	
保健後半		1	通信制・普通科・第2学年	現代高等保健体育(大修館書店)	
科目の目標		保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。 (1)個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 (2)健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な課題に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える能力を養う。 (3)障害を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。			
レポート締切日	レポート内容	レポート回数	レポートで育成する資質・能力 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	スクーリング回数	学習活動 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」
7月1日	・思春期と健康 ・性意識と性行動の選択 ・結婚生活と健康 ・妊娠・出産と健康 ・家族計画と人工妊娠計画	1	・学習に取り組む意欲 ・教科書等をきちんと読み込み、レポートへ反映させる。 ・説明文や用語解説まで目を通させる。 ＜適切な用語や説明文で答えられること。＞	1	・生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理を求める。(知識・技能・思考・判断・表現力)
10月1日	・加齢と健康 ・高齢者のための社会的取り組み ・保健制度とその活用 ・医療制度とその活用 ・医薬品と健康 ・大気汚染と健康 ・水質汚濁・土壌汚染と健康	2	・学習に取り組む意欲 ・教科書等をきちんと読み込み、レポートへ反映させる。 ・説明文や用語解説まで目を通させる。 ＜適切な用語や説明文で答えられること。＞		・保健医療制度や地域の保健所、保健センター医療機関の活用が必要であること。 ・人間の生活や生産活動は自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすことがあること。 (主体的に学習に取り組む態度)
12月1日	・水質汚濁・土壌汚染と健康 ・健康被害の防止と環境対策 ・環境衛生活動のしくみと働き ・食品衛生活動の仕組みと働き ・食品と環境の保健と私たち ・働くことと健康 ・労働災害・職業病と健康	3	・学習に取り組む意欲 ・教科書等をきちんと読み込み、レポートへ反映させる。 ・説明文や用語解説まで目を通させる。 ＜適切な用語や説明文で答えられること。＞		・面接指導(後半)の内容について一斉指導をする ・食品衛生活動は食品の安全性を確保するように基準が設定されそれに基づき行われていること (主体的に学習に取り組む態度)
レポートの計		3			

学校の教育目標	1 学習指導のさらなる充実 2 生徒の社会性の向上 3 保護者、家庭との連携強化 4 教職員の資質向上 5 学校運営の効率化(働き方改革)
---------	---

教科の目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
-------	--

科目名		単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)	
音楽Ⅰ		2	通信制・普通科・第4学年	Tutti+Ⅰ(教育出版)	
科目の目標		・音楽の幅広い活動を通して、生徒が個性を生かしながら、思いや意図をもって表現したり味わって鑑賞したりする力を育成し、生涯にわたり、音楽に親しむ心情を養う。 ・音や音楽が醸し出すよさ、心動かされる音楽を感じ取り、そこに価値を見出せる感性を養う。 ・楽典の学習を踏まえ、自ら音楽を表現する力や楽曲を味わう力を養う。			
レポート締切日	レポート内容	レポート回数	レポートで育成する資質・能力 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	スクーリング回数	学習活動 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」
5月30日	・音の読み方と鍵盤の位置の確認 ・シューベルト作曲「野ばら」について	1	＜評価基準＞ ①楽典(音の読み方や鍵盤の位置)を理解できたか。 曲想や表現上の効果上の効果と「野ばら」の音楽の構造と関わりについて理解できたか。 ②「野ばら」のリズム、速度、旋律を知覚し、外国歌曲のよさや美しさを味わえたか。 ③ドイツ語の言葉の特性を知り、曲にふさわしい発声を理解できたか。 ＜評価方法＞ ①提出物の内容を見る。 ②提出物の内容を見る。 ③提出物の内容を見る。	1	＜評価基準＞ ①楽典(音の読み方や鍵盤の位置)を理解できたか。曲想や表現上の効果上の効果と「野ばら」の音楽の構造と関わりについて理解できたか。 ②「野ばら」のリズム、速度、旋律を知覚し、外国歌曲のよさや美しさを味わえたか。 ③ドイツ語の言葉の特性を知り、曲にふさわしい発声を理解できたか。 ＜評価方法＞ ①授業態度と提出物の内容を見る。 ②授業態度と提出物の内容を見る。 ③授業態度と提出物の内容を見る。
6月30日	・派生音について ・音符ときゅうふについて ・バッハ、ショパン、ドビッシーについて理解を深める	2	＜評価基準＞ ①楽典(派生音、音符と休符)を理解できたか。 ②西洋音楽の良さや美しさを味わえたか。 ③西洋音楽に関心を持ち、鑑賞の学習活動に主体的に取り組んでいるか。 ＜評価方法＞ ①提出物の内容を見る。 ②提出物の内容を見る。 ③提出物の内容を見る。	2	＜評価基準＞ ①楽典(派生音、音符と休符)を実際に演奏し、理解を深められたか。 ②西洋音楽の良さや美しさを感じ、考え、味わえたか。 ③西洋音楽を鑑賞し、理解を深められたか。 ＜評価方法＞ ①授業態度と提出物の内容を見る。 ②授業態度と提出物の内容を見る。 ③授業態度と提出物の内容を見る。
8月30日	・音階について ・歌舞伎について ・モーツァルト、ベートーベン、ストラヴィンスキーについて理解を深める	3	＜評価基準＞ ①楽典(音階)を理解できたか。 ②古典派音楽の良さや美しさを考え、味わえたか。 ③古典派音楽に関心を持ち、鑑賞の学習活動に主体的に取り組んでいるか。 ＜評価方法＞ ①提出物の内容を見る。 ②提出物の内容を見る。 ③提出物の内容を見る。	3	＜評価基準＞ ①楽典(音階)を理解し、五線に書くことができたか。 ②古典派音楽の良さや美しさを感じ、考え、味わえたか。 ③古典派音楽を持ち、鑑賞し理解を深められたか。 ＜評価方法＞ ①授業態度と提出物の内容を見る。 ②授業態度と提出物の内容を見る。
10月20日	・様々な長音階につて ・拍子について ・シューベルト、チャイコフスキー、ワグナーについて理解を深める	4	＜評価基準＞ ①楽典(長音階、拍子)を理解できたか。 ②ロマン派音楽の特徴や美しさを考え、それを自分の音楽音楽生かすことができたか。 ③ロマン派音楽を実際に演奏し、理解を深められたか。 ＜評価方法＞ ①提出物の内容を見る。 ②提出物の内容を見る。 ③提出物の内容を見る。	4	＜評価基準＞ ①楽典(長音階、拍子)を理解し、体感し、五線に書くことできたか。 ②ロマン派音楽の特徴や美しさを体感し、表現することができたか。 ③ロマン派音楽の演奏技術を理解し表現する楽しさを味わえたか。 ＜評価方法＞ ①授業態度と提出物の内容を見る。 ②授業態度と提出物の内容を見る。 ③授業態度と提出物の内容を見る。
11月20日	・楽器の分類 ・速度に関する用語について ・ラヴェル「ボレロ」、山田耕柞「この道」について理解を深める	5	＜評価基準＞ ①楽典(速度関する用語)を理解できたか。 ②楽器の分類を理解し、それぞれの楽器がどのような音色で表現しているか考え、理解できたか。 ③日本歌曲を歌い、鑑賞し、良さや美しさを味わえたか。 ＜評価方法＞ ①提出物の内容を見る。 ②提出物の内容を見る。 ③提出物の内容を見る。	5	＜評価基準＞ ①楽典(速度関する用語)を楽譜を使い理解できたか。 ②楽器に実際にふれ、表現する楽しさを知ることができたか。 ③日本歌曲を鑑賞くまた歌い、美しさを知ることができたか。 ＜評価方法＞ ①授業態度と提出物の内容を見る。 ②授業態度と提出物の内容を見る。 ③授業態度と提出物の内容を見る。
12月20日	・演奏法に関する記号について理解を深める	6	＜評価基準＞ ①1年間の学習における表現や鑑賞の「知識」に関する諸事項について理解できたか。 ②1年間学習したことが、自分の音楽として表現できるようになったか。 ③1年間の音楽学習のまとめとして、自分自身の音楽に対する考えがどのように変化したか、自分の言葉で書くことができたか。 ＜評価方法＞ ①提出物の内容を見る。 ②提出物の内容を見る。 ③提出物の内容を見る。	6	＜評価基準＞ ①1年間の学習における表現や鑑賞の「知識」に関する諸事項について体感し理解できたか。 ②1年間学習したことを、自分の音楽として表現できたか。 ③1年間の音楽学習のまとめとして自分自身の音楽に対する考え方がどのように変化したか、発表することができたか。 ＜評価方法＞ ①授業態度と提出物の内容を見る。 ②授業態度と提出物の内容を見る。 ③授業態度と提出物の内容を見る。
レポートの計		6			

学校の教育目標	1 学習指導のさらなる充実 2 生徒の社会性の向上 3 保護者、家庭との連携強化 4 教職員の資質向上 5 学校運営の効率化(働き方改革)
---------	--

教科の目標	・小中学校での美術を基本に、色彩と形態の芸術としての美術を学び、表現力・観察力を身に付けさせる。 ・美術の幅広い活動を通して書を愛好する心情を育て、感性を豊かにし、創造的な表現力を身に付けさせる。
-------	---

科目名		単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)		
美術Ⅰ		2	通信制・普通科・第4学年	高校の美術Ⅰ(日本文教出版)		
科目の目標		美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
レポート 締切日	レポート内容	レポート 回数	レポートで育成する資質・能力 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	スクー リング 回数	学習活動 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	
	グレースケールによる「明度差の グラデーション」	1	①適切な9段階の明度のグラデーションをつくる事が出来る。 ②濃さの違う鉛筆を使い適切に表現する事が出来る。 ＜評価方法＞ ①作品の内容を見る。 ②作品の内容を見る。	1	②説明を理解し、濃さの違う鉛筆を使い適切に表現する事が出来る。 ③課題を理解し意欲的に制作に取り組んでいる。 ＜評価方法＞ ②授業態度と提出作品の内容を見る。 ③授業態度を見る。	
	「色相環」を描く	2	①水彩絵の具を用いて12色の色相環をつくる事が出来る。 ②水彩絵の具の特性を理解し、適切に表現する事が出来る。 ＜評価方法＞ ①作品の内容を見る。 ②作品の内容を見る。	2	②説明を理解し水彩絵の具を使って適切に表現する事が出来る。 ③課題を理解し意欲的に制作に取り組んでいる。 ＜評価方法＞ ②授業態度と提出作品の内容を見る。 ③授業態度を見る。	
	技法研究「模写」	3	①バランス、線の強弱・濃淡を観察し、鉛筆の階調を工夫して模写する事が出来る。 ②人体の骨格や肉付きを意識し、大きく力強い表現が出来る。 ＜評価方法＞ ①作品の内容を見る。 ②作品の内容を見る。	3	②説明を理解し、作品そっくりに大きく表現する事が出来る。 ③課題を理解し意欲的に制作に取り組んでいる。 ＜評価方法＞ ②授業態度と提出作品の内容を見る。 ③授業態度を見る。	
	自画像「鏡の中の自分を描く」	4	①頭部、首、上半身の繋がり、肌の色味を観察し、創造的に表現する事が出来る。 ②構図や表情を工夫し自分らしい表現をしている。 ③細部まで表現している。 ＜評価方法＞ ①作品の内容を見る。 ②作品の内容を見る。 ③作品の内容を見る。	4	①説明を理解し、頭部、首、上半身の繋がり、肌の色味を観察し、創造的に表現する事が出来る。 ②課題を理解し構図や表情を工夫し自分らしい表現をしている。 ③細部までこだわりを持って表現している。 ＜評価方法＞ ①授業態度と提出作品の内容を見る。 ②授業態度と提出作品の内容を見る。 ③授業態度を見る。	
	「記述問題」作品の鑑賞色彩の 基礎	5	①教科書を見て適切な回答を考える事が出来る。 ＜評価方法＞ ①レポートの内容を見る。	5	①説明を聞き、適切な回答を考える事が出来る。 ③意欲的に調べ学習に取り組んでいる。 ＜評価方法＞ ①授業態度と提出作品の内容を見る。 ③授業態度を見る。	
	色彩構成「秋の季節感」	6	①水彩絵の具を適切に使うことができる。 ②手と5本の線を使い自身のイメージする季節感を表現することが出来る。 ＜評価方法＞ ①作品の内容を見る。 ②作品の内容を見る。	6	②課題を理解し、自身のイメージする季節感を表現することができる。 ③意欲的に制作に取り組んでいる。 ＜評価方法＞ ②授業態度と提出作品の内容を見る。 ③授業態度を見る。	
レポートの計		6				

学校の教育目標	1 学習指導のさらなる充実 2 生徒の社会性の向上 3 保護者、家庭との連携強化 4 教職員の資質向上 5 学校運営の効率化(働き方改革)
---------	---

教科の目標	○芸術各科の基礎知識、用具等の扱いを習得させる。 ○創作の喜びや鑑賞の楽しみを実感し、生涯にわたって芸術に親しむ心情を養う。
-------	---

科目名		単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)	
書道Ⅰ		2	通信制・普通科・第2学年	書道Ⅰ(東京書籍)	
科目の目標		・小中学校での書写を基本に、文字を素材とした芸術としての書道を学び、古典に基づく表現力・鑑賞力を身に付けさせる。 ・「漢字仮名交じりの書」「漢字の書」「仮名の書」「実用書(硬筆)」における表現力を偏りなく身に付けさせる。 ・書道の幅広い活動を通して書を愛好する心情を育て、感性を豊かにし、創造的な表現力を身に付けさせる。			
レポート締切日	レポート内容	レポート回数	レポートで育成する資質・能力 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	スクーリング回数	学習活動 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」
6月10日	漢字仮名交じりの書(実技) 「夢のかけ橋」	1	＜評価基準＞ ①:書道の用具・用材について理解し丁寧に扱う態度を養えたか。筆の持ち方、書く姿勢について理解できたか。 ②:字形・線質・文字の配置の大切さを理解できたか。全体の調和を意識できたか。 ③:文字を正しく整えて書く学習活動から、毛筆のいいところと難しさを理解し集中して取り組めたか。 ＜評価方法＞ ①:提出作品の内容をみる。 ②:提出作品の内容をみる。 ③:提出作品の内容をみる。	3	＜評価基準＞ ①:実際に用具・用材を手にとって正しく使用できたか。教科書のお手本を見て丁寧に半紙に書けたか。 ②:手本をよく観察して、自作との比較を試みることができたか。 ③:自分で納得のいくまで枚数を重ねて書けたか。書き込みにより練度が高まったか。 ＜評価方法＞ ①:作品を提出できたか。授業態度と提出作品の内容をみる。 ②:授業態度と提出作品の内容をみる。 ③:授業態度と提出作品の内容をみる。
7月10日	楷書(実技) 孔子廟堂碑「天風」	2	＜評価基準＞ ①:楷書の用筆、字形について理解できたか。唐の四大家の書をはじめとして様々な書風の楷書があることを理解できたか。 ②:古典の字形・線質・文字の配置の美しさを意識できたか。 ③:古典の特徴・美しさを理解し取り組めたか。 ＜評価方法＞ ①:提出作品の内容をみる。 ②:提出作品の内容をみる。 ③:提出作品の内容をみる。	1	＜評価基準＞ ①:楷書の用筆、字形について理解して書けたか。唐の四大家の書をはじめとして、様々な書風の楷書があることを理解できたか。 ②:古典の字形・線質・文字の配置の美しさを意識できたか。 ③:古典の特徴・美しさを理解し取り組めたか。 ＜評価方法＞ ①:授業態度と提出作品の内容をみる。 ②:授業態度と提出作品の内容をみる。 ③:授業態度と提出作品の内容をみる。
9月10日	行書(実技) 蘭亭序「永和」	3	＜評価基準＞ ①:行書の用筆、字形について理解できたか。王羲之の書を中心とし、楷書との違いを理解できたか。王羲之が書聖といわれる逸話や蘭亭序の重要性が理解できたか。 ②:古典の字形・線質・文字の配置の美しさを意識できたか。 ③:古典の特徴・美しさを理解し取り組めたか。 ＜評価方法＞ ①:提出作品の内容をみる。 ②:提出作品の内容をみる。 ③:提出作品の内容をみる。	1	＜評価基準＞ ①:行書の用筆、字形について理解して書けたか。王羲之の書を書き、その素晴らしさを理解できたか。書道史上における王羲之の存在を理解できたか。 ②:王羲之の字形・線質・文字の配置の美しさを意識できたか。 ③:古典の特徴・美しさを理解して取り組めたか。 ＜評価方法＞ ①:授業態度と提出作品の内容をみる。 ②:授業態度と提出作品の内容をみる。 ③:授業態度と提出作品の内容をみる。

10月10日	仮名(実技) 「いろは(前半)」	4	<評価基準> ①:「仮名」の用筆、字形について理解できたか。平安朝の「仮名」を中心として学び、小中学校までの「ひらがな」との違いが理解できたか。 ②:「仮名」の字形・線質・文字の流れ・散らし書き等日本独自の美しさを意識できたか。 ③:古典の特徴・美しさを理解し、小筆に集中して取り組めたか <評価方法> ①:提出作品の内容をみる。 ②:提出作品の内容をみる。 ③:提出作品の内容をみる。	1	<評価基準> ①:小筆の持ち方、書く姿勢について理解して書けたか。手本の置き方など半紙に書く時の注意点等が身についたか。 ②:字形・線質・文字の配置の大切さを理解できたか。全体の調和を意識できたか。 ③:小筆の難しさを理解し集中して、取り組めたか。 <評価方法> ①:授業態度をみる。 ②:授業態度と提出作品の内容をみる。 ③:授業態度と提出作品の内容をみる。
11月20日	創作(実技)	5	<評価基準> ①:創作作品を鑑賞したり、身の回りにある書を見つけて、それぞれの表現に生かされている用筆、字形、文字の配置等について理解できたか。 ②:自分の思いを表現するには、字形・線質・文字の配置等をどのようにしたらいいのか工夫できたか。 ③:創作には、手本を書くことばかりでなく、まず自分の好きな言葉を決めるまでの過程、そしてその思いを作品にしてい過程が大切であることを理解すできたか。 <評価方法> ①:提出作品の内容をみる。 ②:提出作品の内容をみる。 ③:提出作品の内容をみる。	2	<評価基準> ①:自分の書きたい好きな言葉を探し決められたか。いろいろ試作できたか。 ②:字形・線質・文字の配置等を工夫できたか。 全体の調和を意識できたか。 ③:人真似ではない自分だけの表現に思いを込めて取り組めたか。いろいろと試しながら書けたか。 <評価方法> ①:授業態度と提出作品の内容をみる。 ②:授業態度と提出作品の内容をみる。 ③:授業態度と提出作品の内容をみる。
12月15日	理論(理論)	6	<評価基準> ①:日本や中国の歴史・文化等、知っておきたい基本的な書道の内容、さらに実用としての硬筆の基礎知識を理解できたか。 ②:実技上達には、まず理論も大切であることが理解できたか。作品制作には取り組む時の意識も大切であることを理解できたか。 ③:理論学習で教科書全体を見ることにより、更に書道への興味を深められたか。 <評価方法> ①:提出レポートの内容をみる。 ②:提出レポートの内容をみる。 ③:提出レポートの内容をみる。	1	<評価基準> ①:レポートの質問内容を、教科書から調べられたか。教科書の手本をみて硬筆が書けたか。 ②:書く事に必要な審美眼を養えたか。 ③:教科書を見て、その図や写真から今まで学んできた書道の世界について、更に幅広く知ることができたか。 <評価方法> ①:授業態度と提出レポートの内容をみる。 ②:授業態度と提出レポートの内容をみる。 ③:授業態度と提出レポートの内容をみる。
				2	第10回と第11回のスクーリングは、定期テストで実施する「実技」の練習をする。 <評価基準> ①:実技試験の方法を模擬テスト形式で練習できたか。問題の重要ポイントを再確認できたか。 ②:本番の試験で落ち着いて取り組み、ミスをしないようにできたか。 ③:自分の実力を出しきり、更に高いレベルの作品が書けるように練習できたか。 <評価方法> ①:授業態度と提出作品の内容をみる。 ②:授業態度と提出作品の内容をみる。 ③:授業態度と提出作品の内容をみる。
レポートの計		6			

学校の教育目標	1 学習指導のさらなる充実 2 生徒の社会性の向上 3 保護者、家庭との連携強化 4 教職員の資質向上 5 学校運営の効率化(働き方改革)
---------	--

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか(知識及び技能) ○理解していること・できることをどう使うか(思考力、判断力、表現力等) ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等)
-------	--

科目名		単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)	
英語コミュニケーションⅠ 前半		2	通信制・普通科・第1学年	All Aboard！EnglishCommunicationⅠ（東京書籍）	
科目の目標		・実生活にどれだけ英語が浸透しているかを認識させ、思考力・判断力・表現力を養い、簡単な英語を使えるようにする。 ・スクーリングにおいて、主体的な学びに向かう力を育むように、できるだけレポートの内容について指導する。			
レポート 締切日	レポート内容	レポート 回数	レポートで育成する資質・能力 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	スクー リング 回数	学習活動 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」
5月15日	・アルファベット ・教室で使う表現 ・be動詞と一般動詞	1	・中学校までの復習 ・アルファベットを理解しているか① ・重要表現を理解しているか② ・be動詞及び一般動詞を理解しているか①②③	1	・アルファベットの小・大文字の確認① ・重要表現と意味の確認② ・一般動詞の使い方を練習、表現する①②③
6月28日	・be動詞の過去形 ・一般動詞の過去形 ・過去にしたことについて英語で述べる	2	・Lesson1の新出単語の意味を理解しているか① ・Lesson1の重要表現を理解しているか② ・過去形の用法と使い方を理解しているか①②	2	・Lesson1の新出単語と意味の確認① ・Lesson1の重要表現と意味の確認② ・過去形の説明を聞き、過去形の使い方を練習し、表現する①②③
7月30日	・助動詞 ・助動詞を使って英語で述べる	3	・Lesson2の新出単語の意味を理解しているか① ・Lesson2の重要表現を理解しているか② ・助動詞の用法と使い方を理解しているか①②	3 4	・Lesson2の新出単語と意味の確認① ・Lesson2の重要表現と意味の確認② ・進行形の説明を聞き、進行形の使い方を練習し、表現する①②③
10月31日	・to不定詞 ・to不定詞を使って英語で述べる	4	・Lesson3の新出単語の意味を理解しているか① ・Lesson3の重要表現を理解しているか② ・to不定詞の用法と使い方を理解しているか①	5 6	・Lesson3の新出単語と意味の確認① ・Lesson3の重要表現と意味の確認② ・助動詞の説明を聞き、助動詞の使い方を練習し、表現する①②③
11月29日	・動名詞 ・動名詞を使って英語で述べる	5	・Lesson4の新出単語の意味を理解しているか① ・Lesson4の重要表現を理解しているか② ・動名詞の用法と使い方を理解しているか①②	7 8	・Lesson4の新出単語と意味の確認① ・Lesson4の重要表現と意味の確認② ・to不定詞の説明を聞き、to不定詞の使い方を練習し、表現する①②③
12月20日	・受け身 ・受け身を使って英語で述べる	6	・Lesson5の新出単語の意味を理解しているか① ・Lesson5の重要表現を理解しているか② ・受け身の用法と使い方を理解しているか①②	9 10	・Lesson5の新出単語と意味の確認① ・Lesson5の重要表現と意味の確認② ・動名詞の説明を聞き、to不定詞の使い方を練習し、表現する①②③
レポートの計		6			

学校の教育目標	1 学習指導のさらなる充実 2 生徒の社会性の向上 3 保護者、家庭との連携強化 4 教職員の資質向上 5 学校運営の効率化(働き方改革)
---------	--

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか(知識及び技能) ○理解していること・できることをどう使うか(思考力、判断力、表現力等) ○理解したことを使って、どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等)
-------	---

科目名		単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)	
英語コミュニケーションⅠ 後半		2	通信制・普通科・第2学年	All Aboard！EnglishCommunicationⅠ（東京書籍）	
科目の目標		・実生活にどれだけ英語が浸透しているかを認識させ、思考力・判断力・表現力を養い、簡単な英語を使えるようにする。 ・スクーリングにおいて、主体的な学びに向かう力を育むように、できるだけレポートの内容について指導する。			
レポート 締切日	レポート内容	レポート 回数	レポートで育成する資質・能力 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	スクー リング 回数	学習活動 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」
5月15日	・Lesson6 新出単語 ・Lesson6 重要表現 ・受け身	1	・Lesson6の新出単語の意味を理解しているか① ・Lesson6 の重要表現を理解しているか② ・受け身の用法と使い方を理解しているか①②③	1	・Lesson6の新出単語と意味の確認① ・Lesson6の重要表現と意味の確認② ・受け身の説明を聞き、受け身の使い方を練習し、受け身を使って表現する①②③
6月28日	・Lesson7 新出単語 ・Lesson7 重要表現 ・比較表現	2	・Lesson7の新出単語の意味を理解しているか① ・Lesson7 の重要表現を理解しているか② ・比較表現の用法と使い方を理解しているか①②③	2	・Lesson7の新出単語と意味の確認① ・Lesson7の重要表現と意味の確認② ・比較表現の説明を聞き、比較表現の使い方を練習し、比較表現を使って表現する①②③
7月30日	・Lesson8 新出単語 ・Lesson8 重要表現 ・現在完了形	3	・Lesson8の新出単語の意味を理解しているか① ・Lesson8 の重要表現を理解しているか② ・現在完了形の用法と使い方を理解しているか①②③	3 4	・Lesson8の新出単語と意味の確認① ・Lesson8の重要表現と意味の確認② ・現在完了形の説明を聞き、現在完了形の使い方を練習し、現在完了形を使って表現する①②③
10月31日	・Lesson9 新出単語 ・Lesson9 重要表現 ・名詞を後ろから説明する分詞	4	・Lesson9の新出単語の意味を理解しているか① ・Lesson9 の重要表現を理解しているか② ・名詞を後ろから説明する分詞の用法と使い方を理解しているか①②③	5 6 7	・Lesson9の新出単語と意味の確認① ・Lesson9の重要表現と意味の確認② ・名詞を後ろから説明する分詞の説明を聞き、名詞を後ろから説明する分詞の使い方を練習し、名詞を後ろから説明する分詞を使って表現する①②③
11月29日	・Lesson 10 新出単語 ・Lesson10 重要表現 ・Lesson10の内容理解 ・関係代名詞	5	・Lesson10の新出単語の意味を理解しているか① ・Lesson10の重要表現を理解しているか② ・関係代名詞の用法と使い方を理解しているか①②③	8 9	・Lesson10の新出単語と意味の確認① ・Lesson10の重要表現と意味の確認② ・関係代名詞の説明を聞き、関係代名詞の使い方を練習し、関係代名詞を使って表現する①②③
12月20日	・Lesson10 新出単語 ・Lesson10 重要表現 ・Lesson10の内容理解 ・関係代名詞	6	・Lesson 10の新出単語の意味を理解しているか① ・Lesson10 の重要表現を理解しているか② ・関係代名詞の用法と使い方を理解しているか①②③	10	・Lesson10の新出単語と意味の確認① ・Lesson10の重要表現と意味の確認② ・関係代名詞の説明を聞き、関係代名詞の使い方を練習し、関係代名詞を使って表現する①②③
レポートの計		6			

学校の教育目標	1 学習指導のさらなる充実 2 生徒の社会性の向上 3 保護者、家庭との連携強化 4 教職員の資質向上 5 学校運営の効率化(働き方改革)
---------	---

教科の目標	1 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。 2 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝えあったりすることができる力を養う。 3 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
-------	--

科目名		単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)		
英語コミュニケーションⅡ		3	通信制・普通科・第3学年	All Aboard！EnglishCommunicationⅡ（東京書籍）		
科目の目標		1 聞くこと 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができるようにする。 2 読むこと 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができるようにする。 3 話すこと〔やりとり〕 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝えあうやり取りを続けることができるようにする。 4 話すこと〔発表〕 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができるようにする。 5 書くこと 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落からなる文章を詳しく書いて伝えることができるようにする。				
レポート締切日	レポート内容	レポート回数	レポートで育成する資質・能力 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	スクーリング回数	学習活動 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	
5月17日	・Pre-Lesson、Lesson1 新出単語 ・Pre-Lesson、Lesson1 重要表現 ・関係代名詞(what)	1	・Pre-Lesson、Lesson1の新出単語の意味を理解しているか① ・Pre-Lesson、Lesson1 の重要表現を理解しているか② ・関係代名詞(what)の用法と使い方を理解しているか①②③	1	・Pre-Lesson、Lesson1の新出単語と意味の確認① ・Pre-Lesson、Lesson1の重要表現と意味の確認② ・関係代名詞(what)の説明を聞き、使い方を練習し、表現する①②③	
6月5日	・Lesson2 新出単語 ・Lesson2 重要表現 ・比較表現	2	・Lesson2の新出単語の意味を理解しているか① ・Lesson2の重要表現を理解しているか② ・比較表現の用法と使い方を理解しているか①②③	2	・Lesson2の新出単語と意味の確認① ・Lesson2の重要表現と意味の確認② ・比較表現の説明を聞き、使い方を練習し、表現する①②③	
6月30日	・Lesson3 新出単語 ・Lesson3 重要表現 ・itの用法	3	・Lesson3の新出単語の意味を理解しているか① ・Lesson3の重要表現を理解しているか② ・itの用法と使い方を理解しているか①②③	3	・Lesson3の新出単語と意味の確認① ・Lesson3の重要表現と意味の確認② ・itの用法の説明を聞き、使い方を練習し、表現する①②③	
7月12日	・Lesson4 新出単語 ・Lesson4 重要表現 ・間接疑問文	4	・Lesson4の新出単語の意味を理解しているか① ・Lesson4の重要表現を理解しているか② ・間接疑問文の用法と使い方を理解しているか①②③	4	・Lesson4の新出単語と意味の確認① ・Lesson4の重要表現と意味の確認② ・間接疑問文の用法の説明を聞き、使い方を練習し、表現する①②③	
8月22日	・Lesson5 新出単語 ・Lesson5 重要表現 ・to不定詞を含む表現	5	・Lesson5の新出単語の意味を理解しているか① ・Lesson5の重要表現を理解しているか② ・to不定詞を含む表現の用法と使い方を理解しているか①②③	5	・Lesson5の新出単語と意味の確認① ・Lesson5の重要表現と意味の確認② ・to不定詞を含む表現の用法の説明を聞き、使い方を練習し、表現する①②③	
9月20日	・Lesson6 新出単語 ・Lesson6 重要表現 ・動詞の目的語になるif節	6	・Lesson6の新出単語の意味を理解しているか① ・Lesson6の重要表現を理解しているか② ・動詞の目的語になるif節の用法と使い方を理解しているか①②③	6	・Lesson6の新出単語と意味の確認① ・Lesson6の重要表現と意味の確認② ・動詞の目的語になるif節の用法の説明を聞き、使い方を練習し、表現する①②③	
10月17日	・Lesson7 新出単語 ・Lesson7 重要表現 ・関係副詞	7	・Lesson7の新出単語の意味を理解しているか① ・Lesson7の重要表現を理解しているか② ・関係副詞の用法と使い方を理解しているか①②③	7	・Lesson7の新出単語と意味の確認① ・Lesson7の重要表現と意味の確認② ・関係副詞の用法の説明を聞き、使い方を練習し、表現する①②③	
11月21日	・Lesson8 新出単語 ・Lesson8 重要表現 ・知覚動詞	8	・Lesson8の新出単語の意味を理解しているか① ・Lesson8の重要表現を理解しているか② ・知覚動詞の用法と使い方を理解しているか①②③	8	・Lesson8の新出単語と意味の確認① ・Lesson8の重要表現と意味の確認② ・知覚動詞の用法の説明を聞き、使い方を練習し、表現する①②③	
12月18日	・Lesson9 新出単語 ・Lesson9 重要表現 ・使役動詞	9	・Lesson9の新出単語の意味を理解しているか① ・Lesson9の重要表現を理解しているか② ・使役動詞の用法と使い方を理解しているか①②③	9	・Lesson9の新出単語と意味の確認① ・Lesson9の重要表現と意味の確認② ・使役動詞の用法の説明を聞き、使い方を練習し、表現する①②③	
レポートの計		9				

学校の教育目標	1 学習指導のさらなる充実 2 生徒の社会性の向上 3 保護者、家庭との連携強化 4 教職員の資質向上 5 学校運営の効率化(働き方改革)
---------	---

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか(知識及び技能) ○理解していること・できることをどう使うか(思考力、判断力、表現力等) ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等)
-------	--

科目名		単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)	
論理・表現 I		2	通信制・普通科・第4学年	NEW FAVORITE English Loginc and Expression I（東京書籍）	
科目の目標		・日常生活について英語で表現するための基本的語彙や表現を身につける。 ・日常生活について簡単な英語で表現できる。 ・スクーリングにおいて、主体的な学びに向かう力を育むように、できるだけレポートの内容について指導する。			
レポート 締切日	レポート内容	レポート 回数	レポートで育成する資質・能力 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	スクー リング 回数	学習活動 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」
5月15日	・食事に関する語彙と表現 ・道案内に関する語彙と表現	1	・食事と道案内に関する基本的な語彙を理解しているか① ・食事と道案内に関する重要表現を理解しているか② ・食事と道案内に関する語彙、重要表現を使って言いたいことを表現できるか①②③	1	・食事と道案内に関する基本的な語彙の確認① ・食事と道案内に関する重要表現の確認② ・食事と道案内に関する基本的な語彙と重要表現の使い方を練習、表現する①②③
6月28日	・人物紹介に関する語彙と表現 ・健康状態に関する語彙と表現	2	・人物紹介と健康状態に関する基本的な語彙を理解している① ・人物紹介と健康状態に関する重要表現を理解しているか② ・人物紹介と健康状態に関する語彙、表現を使って言いたいことを表現できるか。①②③	2	・人物紹介と健康状態に関する基本的な語彙の確認① ・人物紹介と健康状態に関する重要表現の確認② ・人物紹介と健康状態に関する基本的な語彙と表現の使い方を練習し、表現する①②③
7月30日	・買い物に関する語彙と表現 ・行ってみたい場所に関する語彙と表現	3	・買い物と行ってみたい場所に関する基本的な語彙を理解しているか① ・買い物と行ってみたい場所に関する重要表現を理解しているか② ・買い物と行ってみたい場所に関する語彙と表現を使って言いたいことを表現できるか①②③	3 4	・買い物と行ってみたい場所に関する基本的な語彙の確認① ・買い物と行ってみたい場所に関する重要表現の確認② ・買い物と行ってみたい場所に関する基本的な語彙と重要表現の使い方を練習し、表現する①②③
10月31日	・イベントに誘うときの語彙と表現 ・学校生活について相談するときの語彙と表現	4	・イベントに誘うときと学校生活について相談するときの基本的な語彙を理解しているか① ・イベントに誘うときと学校生活について相談するときの重要表現を理解しているか② ・イベントに誘うときと学校生活について相談するときの語彙と表現を使って言いたいことを表現できるか①②③	5 6	・イベントに誘うときと学校生活について相談するときの基本的な語彙の確認① ・イベントに誘うときと学校生活について相談するときの重要表現の確認② ・イベントに誘うときと学校生活について相談するときの基本的な語彙と重要表現の使い方を練習し、表現する①②③
11月29日	・好きなものを紹介するときの語彙と表現 ・待ち合わせに関する語彙と表現	5	・好きなものを紹介するときと待ち合わせに関する基本的な語彙を理解しているか① ・好きなものを紹介するときと待ち合わせに関する重要表現を理解しているか② ・好きなものを紹介するときと待ち合わせに関する語彙と表現を使って言いたいことを表現できるか①②③	7 8	・好きなものを紹介するときと待ち合わせに関する基本的な語彙の確認① ・好きなものを紹介するときと待ち合わせに関する重要表現の確認② ・好きなものを紹介するときと待ち合わせに関する基本的な語彙と重要表現の使い方を練習し、表現する①②③
12月20日	・ディスカッションで使う語彙と表現 ・要望や主張を述べるときの語彙と表現	6	・ディスカッションと要望や主張を述べるをときの基本的な語彙を理解しているか① ・ディスカッションと要望や主張を述べるをときの重要表現を理解しているか② ・ディスカッションと要望や主張を述べるをときの語彙や表現を使って言いたいことを表現できるか①②③	9 10	・ディスカッションと要望や主張を述べるをときの基本的な語彙の確認① ・ディスカッションと要望や主張を述べるをときの重要表現の確認② ・ディスカッションと要望や主張を述べるをときの基本的な語彙と重要表現の使い方を練習し、表現する①②③

レポートの計		6			

学校の教育目標	1 学習指導のさらなる充実 2 生徒の社会性の向上 3 保護者、家庭との連携強化 4 教職員の資質向上 5 学校運営の効率化(働き方改革)
---------	---

教科の目標	○人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族及び家庭と社会との関わりについて理解を深め、家庭・家族、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらにかかわる技能を身に付けるようにする。（知識及び技能） ○家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。（思考力・判断力・表現力等） ○様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。（主体的に学習に取り組む態度）
-------	--

科目名		単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)	
家庭総合		4	通信制・普通科・第1学年	家庭総合 自立・共生・創造（東京書籍）	
科目の目標		人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらにかかわる技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。（知識及び技能） 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。（思考力・判断力・表現力） さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。（主体的に学習に取り組む態度）			
レポート締切日	レポート内容	レポート回数	レポートで育成する資質・能力 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	スクーリング回数	学習活動 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」
5月27日	・生涯を見通す生活設計 ・人生をつくる家族・家庭	1	①・生涯発達の視点から各ライフステージの特徴と課題について理解している。 ・家族・家庭の機能と家族関係について理解している。 ②生活設計について問題を見いだして、解決策を構想し、実践を改善する力を身に付けている。	①	【学習活動】 ・概要説明 ・レポート1回目について ＜評価規準・評価方法＞ ①レポートを適切に解答している。試験で正しく解答できている。（レポート1回目・定期試験） ②レポート・授業を通して、自身の生活を見直すことができている。（レポート1回目・学習プリント）
6月30日	・子どもと共に育つ命を育む 子どもの育つ力を知る これからの保育環境	2	①乳幼児の心身の発達と生活について理解を深めている。 ③子どもとの関わりと保育・福祉について、課題の解決に主体的に取り組み、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	②	【学習活動】 ・レポート2回目について ・レポート3回目について ＜評価規準・評価方法＞ ①レポートを適切に解答している。試験で正しく解答できている。（レポート2回目・3回目・定期試験） ②・レポート・授業を通して、子どもとの関わりについて主体的に学習している。（レポート2回目・赤ちゃん人形を使った実習） ・レポート・授業を通して、高齢者への適切な支援方法等を考えることができている。（レポート3回目・学習プリント）
7月15日	・超高齢社会を共に生きる高齢期 ・共に生き、共に支える共生	3	①高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解を深めている。 ②高齢者の自立生活を支えるために、高齢者の心身の状況に応じた適切な支援の方法や関わり方について問題を見いだして課題を設定し、課題を解決する力を身に付けている。	③	【学習活動】 被服実習 1 刺し子について 刺し子の縫い方 ＜評価規準・評価方法＞ ①実習を通して、基本的な縫い方を理解している。（授業態度・レポート9回目・刺し子作品）

8月5日	・住生活をつくる 住生活の変遷と住居の機能 安全で快適な住生活の計画 住生活の文化と知恵	4	①住生活の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 ②主体的に住生活を営むことができるよう防災などの安全に配慮した住生活とまちづくりについて問題を見いだして課題を設定し、課題を解決する力を身に付けている。	④	【学習活動】 ・レポート4回目について ・レポート5回目について ＜評価規準・評価方法＞ ①レポートを適切に解答している。試験で正しく解答できている。（レポート4回目・5回目・定期試験） ②・レポート・授業を通して、自身の住生活を見直すことができる。（レポート4回目・学習プリント） ・レポート・授業を通して、消費者としての行動を考え、解決策を構想できている。（レポート5回目・学習プリント） ③自身の家庭生活を振り返り、問題を見いだし解決に向けて主体的に取り組んでいる。（レポート5回目）
8月26日	・経済生活を営む 経済生活 ・生活に生かそう ホームプロジェクト	5	①消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう、消費者問題や消費者の自立と支援などについて理解している。 ②自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ③ホームプロジェクトについて課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分の家庭の充実向上を図るために実践しようとしている。	⑤	【学習活動】 ・レポート6回目について ・レポート7回目について ＜評価規準・評価方法＞ ①レポートを適切に解答している。試験で正しく解答できている。（レポート6回目・7回目・定期試験） ②・レポート・授業を通して、自身の食生活を見直すことができる。（レポート6回目・7回目・学習プリント）
10月14日	・食生活をつくる 食生活の課題 食事と栄養・食品の選択と安全 健康を見通した食事計画	6	①ライフステージの特徴に着目し、栄養の特徴について理解している。 ②主体的に食生活を営むことができるように健康に配慮した事故と家族の食事について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	⑥	【学習活動】 ・調理実験 糖分の計測 塩分の計測 ＜評価規準・評価方法＞ ②授業を通して、科学的視点から自身の食生活を見直すことができる。（学習プリント・授業態度）
11月11日	・食生活をつくる 調理の基礎 食生活の文化と知恵 これからの食生活	7	①目的に応じた調理に必要な技能を身に付けている。 ③様々な人々と協働し、食生活の科学と文化につて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	⑦	【学習活動】 ・調理実習 日常食をつくる ＜評価規準・評価方法＞ ①実習を通して、調理の基礎を身に付けることが出来ている。（学習プリント・授業態度）
12月16日	・衣生活をつくる 被服の役割を考える 被服を手入れする 被服を管理する	8	①・ライフステージの特徴や課題に着目し、身体特性と被服の機能及び着装について理解している。 ・衣生活の自立に必要な技能を身に付けている。 ・被服の管理について科学的に理解している。	⑧	③友だちと協働して調理実習に主体的に取り組んでいる。（授業態度）
1月20日	・衣生活をつくる 被服をつくる 衣生活の文化と知恵 これからの衣生活	9	①被服製作について科学的に理解している。 ③衣生活の科学と文化について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	⑨	【学習活動】 ・レポート8回目について ・レポート9回目について ＜評価規準・評価方法＞ ①レポートを適切に解答している。試験で正しく解答できている。（レポート8回目・9回目・定期試験） ③・レポート・授業を通して、自身の衣生活を見直すことができる。（レポート8回目・9回目・学習プリント）
				⑩	学習活動】 ・被服実習2 刺し子の仕上げ方 ＜評価規準・評価方法＞ ③実習を通して、製作の楽しさを知り、主体的に作製に取り組むことができている。（レポート9回目・刺し子作品）
レポートの計		9			

学校の教育目標	1 学習指導のさらなる充実 2 生徒の社会性の向上 3 保護者、家庭との連携強化 4 教職員の資質向上 5 学校運営の効率化(働き方改革)
---------	---

教科の目標	○人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族及び家庭と社会との関わりについて理解を深め、家庭・家族、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらにかかわる技能を身に付けるようにする。（知識及び技能） ○家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。（思考力・判断力・表現力等） ○様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な能力を養う（主体的に学習に取り組む態度）
-------	---

科目名		単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）	
服飾手芸		2	通信制・普通科・第4学年	令和版 はじめの「ぬう」と「あむ」+おさいほう（主婦の友社）	
科目の目標		○編み物・刺しゅう・パッチワークなど手芸の基礎的技術を習得させる。（知識及び技能） ○服飾手芸に対する関心を高め、情操を豊かにする。（主体的に学習に取り組む態度） ○編み物・刺しゅう・パッチワークを学習することによって、それぞれの技法・作品・感触の特徴を理解し、その目的にふさわしいものを選んで活用する力づけ、そうしたものを創り出し、美しい調和のとれた生活環境をつくりだす力を育てる。（思考力・判断力・表現力）			
レポート 締切日	レポート内容	レポート 回数	レポートで育成する資質・能力 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	スクー リング 回数	学習活動 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」
6月30日	・裁縫の基礎 ・刺しゅうの基礎 ・刺しゅうのバック製作	1	① 裁縫道具の名称や使い方について理解できたか。 ② 目的に合った技法を選び製作することができたか。 ③ 刺しゅうの技法を上手に組み合わせ、集中して取り組むことができたか。	1	・概要説明 ・裁縫用具や手縫いについて学び、レポートに取り組む。①② ・刺しゅうの基礎を学ぶ① ・目的にあったデザインを考える。②③
8月25日	・ミシンの扱い方 ・きんちゃく袋の作り方 ・パッチワークの小物製作	2	① ミシンの名称や使い方について理解できたか。 ② 目的に合った技法を選び製作することができたか。 ③ 配色を考えて、楽しみながら取り組むことができたか。	2	・作品のでサインを完成させる。②③ ・刺しゅうの技法を上手に組み合わせ、作品を製作する。①②③
11月24日	・編み物の基礎 ・一目ゴム編みのマフラー製作	3	① 編み物の基礎を理解できたか。 ② 目的にあった技法を選び製作することができたか。 ③ 棒編みの基本を身につけて、作品製作に取り組むことが出来たか。	3	・ミシンの使い方について学び、レポートに取り組む。①② ・パッチワークの基礎を学ぶ①
12月22日	・自由作品	4	② これまでに学んだことを生かして製作することができたか。 ③ 積極的に作品作りに取り組むことができたか。	4	・配色を考えながら作品製作をする。①②③
				5	・編み物の基礎を学習し、レポートに取り組む。①②③
				6	・棒編みの技法を習得する。① ・一目ゴム編みのマフラーを製作する①②③
				7	
				8	これまでに学習したことを生かして、自由作品の制作①②③

レポートの計		4			

学校の教育目標	1 学習指導のさらなる充実 2 生徒の社会性の向上 3 保護者、家庭との連携強化 4 教職員の資質向上 5 学校運営の効率化(働き方改革)
---------	---

教科の目標	○効果的なコミュニケーションの実現, コンピュータやデータの活用について理解し, 技能を身につけるとともに, 情報社会と人との関わりについて理解する。(知識及び技能) ○事象を情報とその結び付きの視点から捉え, 問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いることができる。(思考力、判断力、表現力等) ○情報社会との関わりについて考えながら, 問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し, 自ら評価し改善できる。(学びに向かう力、人間性等)
-------	--

科目名		単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)		
情報Ⅰ		2	通信制・普通科・第3学年	新編情報Ⅰ(東京書籍)		
科目の目標		情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ, 情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して, 問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し, 情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。				
レポート 締切日	レポート内容	レポート 回数	レポートで育成する資質・能力 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	スクー リング 回数	学習活動 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	
5月30日	情報とメディアの特性 問題解決の流れ 発想法 情報モラル	1	・情報やメディアの特性を理解している。① ・発想法の基本的な考え方を理解している。① ・身近な問題について, 問題解決のプロセスを当てはめて考えることができる。② ・情報モラルを身につけようとしている。③	①	・身近な問題を例示し, そこから問題解決のプロセスを経て自分の考えを表現する。② ・メディアの効果的な利用とモラルについての基礎知識を理解し, それを活用できるようにレポートに取り組む。	
6月30日	個人情報の流出 傷つかない傷つけないために 著作権 情報技術の発展	2	・個人情報とは何かを理解している。① ・著作権の利用について保護されているかどうか適切に判断することができる。② ・被害者にも加害者にもならないために, どうしたらよいか考えようとしている。③ ・身の回りの情報技術の活用場面を知ろうとしている。③	②	・著作権に配慮しつつ身の回りの情報技術を活用していくための方法について考える。③ ・著作権法等に関する知識や最新の情報技術についての知識を得、それらを活用できるようにレポートに取り組む。	
8月10日	情報化と私たちの生活の変化 よりよい情報社会へ コミュニケーション手段の変化 ネットコミュニケーションの特徴 デジタルの世界へ 数値と文字のデジタル表現 音と画像のデジタル表現 色と動画のデジタル表現 目的に応じたデジタル化	3	・情報化の進展による生活の変化について理解している。① ・よりよい情報社会を築くための情報環境について, どのようなことに気を付けたらよいか考えようとしている。③ ・状況に応じて適切なメディアを選択することができる。② ・デジタルとアナログの違いを理解している。① ・音と画像のデジタル化の方法を理解している。① ・標準化の精度と量子化のレベルについて興味を持とうとしている。③	③	・デジタル表現について仕組みを理解し、適切にデータを加工する。② ・デジタルの良さを理解し、自分の生活に役立てることができるようにレポートに取り組む。	
10月20日	情報デザイン ユニバーサルデザイン 情報デザインの流れ コンピュータとは何か ソフトウェアの仕組み 演算の仕組みとコンピュータの限界	4	・デザイン思考の流れについて理解している。① ・コンピュータの仕組みに興味を持とうとしている。③ ・ソフトウェアの働きを理解している。① ・論理回路を真理値表に表現することができる。②	④	・情報デザインの基礎を理解し、自分の考えをわかりやすく他者に伝える技術と態度を身につける。②③ ・コンピュータの内部で行われている演算について理解できるようにレポートに取り組む。	
11月30日	アルゴリズムの表現 プログラムの基本構造 発展的なプログラム モデル化とシミュレーション シミュレーションの活用	5	・アルゴリズムを表現する方法を理解している。① ・プログラムの順次構造、分岐構造や反復構造を理解している。① ・配列やリストを用いたプログラムを理解している。① ・シミュレーションで表現をすることができる。② ・モデル化とシミュレーションをしようとしている。③	⑤	・プログラミングの良さと楽しさを理解し、自分でプログラミングの作成と改良をする。②③ ・アルゴリズムについて理解し、プログラミング的思考で物事を考えるための知識を得られるようにレポートに取り組む。	
12月20日	インターネットの仕組み サーバとクライアント インターネット上のサービス 情報セキュリティ データの形式 データベースの活用 データ分析の流れ 目的に合わせたデータの利用	6	・サーバとクライアントの意味と役割を理解している。① ・インターネット上のサービスの仕組みを理解している。① ・データベースがどのように活用されているか理解している。① ・プロトコルによってどのように通信しているかを考えることができる。② ・集めたデータに欠損値や外れ値が含まれていたらどのような分析結果になるか考えることができる。② ・ネットワークの仕組みについて興味を持とうとしている。③	⑥	・インターネットの仕組みについて理解し、自分でネットワークの設定を調べる。①②③ ・データ分析の基礎や手法を理解し、簡単なデータの分析ができるようにレポートに取り組む。	
レポートの計		6				

学校の教育目標	1 学習指導のさらなる充実 2 生徒の社会性の向上 3 保護者、家庭との連携強化 4 教職員の資質向上 5 学校運営の効率化(働き方改革)
---------	--

教科の目標	○商業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ○ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ○職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
-------	---

科目名		単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)	
ビジネス基礎		4	通信制・普通科・第2学年	ビジネス基礎(実教出版)	
科目の目標		・ビジネスについて実務の即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ・ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに関わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 ・ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			
レポート締切日	レポート内容	レポート回数	レポートで育成する資質・能力 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	スクーリング回数	学習活動 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」
5月20日	・商業の学習とビジネス ・ビジネスとコミュニケーション	1	・商業の学習とビジネスの関わりを理解する①② ・社会の課題とビジネスの関わりを理解する①② ・コミュニケーション・ビジネスマナーを理解	1	・スクーリングでのオリエンテーション ・商業の学習とビジネスの関わり、コミュニケーション、ビジネスマナーについて指導 ・レポートに取り組む③
6月20日	・経済と流通の基礎	2	・経済の仕組みを理解する①② ・流通の役割を理解する①②	2	・スクーリングでは、経済の仕組みや流通の役割について指導 ・経済の仕組みや流通の役割を学び、レポートに取り組む③
7月20日	・さまざまなビジネス	3	・ビジネスの種類を理解する①② ・小売業の役割、種類を理解する①②	3	・スクーリングでは、ビジネスの種類を教え、小売業の役割、種類について指導 ・小売業の役割、種類を学び、レポートに取り組む③
8月20日	・さまざまなビジネス	4	・卸売業、物流業、情報通信業の役割、種類を理解する①② ・金融業のビジネスを理解する①②	4	・スクーリングでは、卸売業、物流業、金融業、情報通信業の役割について指導 ・卸売業、物流業、金融業、情報通信業の役割を学び、レポートに取り組む③
9月20日	・企業活動の基礎	5	・企業の役割を理解する①② ・マーケティングの役割を理解する①②	5	・スクーリングでは、企業やマーケティングの役割について指導 ・企業やマーケティングの役割を学び、レポートに取り組む③
10月20日	・企業活動の基礎	6	・資金調達の方法を理解する①② ・財務諸表、税の役割を理解する①② ・日本の雇用の特徴を理解する①②	6	・スクーリングでは、資金調達、財務諸表、税、雇用について指導 ・資金調達、財務諸表、税、雇用を学び、レポートに取り組む③
11月20日	・ビジネスと売買取引	7	・売買取引の手順を理解する①② ・売買取引に用いる文書を理解する①② ・代金の支払い方法理解する①②	7	・スクーリングでは、売買取引や代金決済について指導 ・売買取引の手順や文書、代金決済を学び、レポートに取り組む③
12月20日	・ビジネス計算の基礎	8	・割合を理解する①② ・仕入原価、利益額の計算を理解する①②	8	・スクーリングでは、ビジネス計算の基本となる割合について指導 ・割合を用いた仕入原価のや利益額の求め方を学び、レポートに取り組む③
12月20日	・ビジネス計算の応用	8	・度量衡や貨幣の換算を理解する①② ・利息の計算を理解する①② ・株式の評価を理解する①②	9	・スクーリングでは、度量衡や貨幣の換算、利息の計算、株式の評価について指導 ・度量衡や貨幣の換算、利息の求め方を学び、レポートに取り組む③
1月20日	・身近な地域のビジネス	9	・地域の魅力、課題を見つける①② ・地域とビジネスの関わりを見つける①②	10	・スクーリングでは、地域の魅力や課題、地域とビジネスの関わりについて指導 ・地域の魅力や課題、地域ビジネスを考え、レポートに取り組む③

レポートの計		9			

学校の教育目標	1 学習指導のさらなる充実 2 生徒の社会性の向上 3 保護者、家庭との連携強化 4 教職員の資質向上 5 学校運営の効率化(働き方改革)
---------	--

教科の目標	○簿記の基礎について体系的・系統的に理解するとともに、関連する知識を身に付けるようにする。 ○簿記のさまざまな取引を理解し、職業人に求められ会計の基礎力を養う。 ○職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
-------	---

科目名		単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)	
簿記		2	通信制・普通科・第3学年	簿記(東京法令出版)	
科目の目標		・簿記について実務の即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術・知識を身に付けるようにする。 ・簿記のさまざまな取引を理解し、ビジネスに関わる者として会計の基礎力を養う。 ・会計を扱う職業人としての向上を目指して自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			
レポート 締切日	レポート内容	レポート 回数	レポートで育成する資質・能力 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	スクー リング 回数	学習活動 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」
5月20日	・簿記の基礎 ・資産・負債・純資産と貸借対照表 ・収益・費用と損益計算書	1	・簿記の基礎を理解する①② ・資産・負債・純資産・収益・費用を理解する①② ・貸借対照表・損益計算書を作成する①②③	1	・スクーリングでは、簿記の基礎や簿記の5要素、諸表の作成について指導 ・簿記の基礎や簿記の5要素を学び、レポートに取り組む③
6月20日	・取引と勘定 ・仕訳と転記 ・仕訳帳と総勘定元帳	2	・取引と勘定の仕組みを理解する①② ・仕訳と転記を理解する①② ・取引を仕訳帳と総勘定元帳へ記入する①②③	2	・スクーリングでは、取引や勘定の仕組みや仕訳と転記について指導 ・取引や勘定の仕組みや仕訳と転記を学び、レポートに取り組む③
8月20日	・試算表 ・精算表 ・決算	3	・試算表・精算表・決算の仕組みを理解する①② ・試算表・精算表を作成する①②③	3	・スクーリングでは、試算表・精算表・決算の仕組みやこれらの作表について指導 ・試算表・精算表・決算の仕組みを学び、レポートに取り組む③
10月20日	・現金・預金などの取引 ・商品売買の取引 ・掛け取引	4	・現金・預金などの取引を理解する①② ・商品売買の取引を理解する①② ・掛け取引を理解する①② ・当座預金出納帳・売上帳・商品有高帳を作成する①②③	4	・スクーリングでは、現金・預金や商品売買、掛け取引について指導 ・現金・預金や商品売買、掛け取引を学び、レポートに取り組む③
11月20日	・手形の取引 ・有価証券の取引 ・その他の債券・債務の取引 ・固定資産の取引	5	・手形の取引を理解する①② ・有価証券の取引を理解する①② ・その他の債券・債務の取引を理解する①② ・固定資産の取引を理解する①②	5	・スクーリングでは、手形、有価証券、その他の債権・債務、固定資産の取引について指導 ・手形、有価証券、その他の債権・債務、固定資産の取引を学び、レポートに
12月20日	・決算整理 ・8桁精算表	6	・決算整理の仕組みを理解する①② ・8桁精算表を作成する①②③	6	・スクーリングでは、決算整理の仕組みや8桁精算表の作成について指導 ・算整理の仕組みや8桁精算表の作成を学び、レポートに取り組む③
レポートの計		6			

学校の教育目標	1 学習指導のさらなる充実 2 生徒の社会性の向上 3 保護者、家庭との連携強化 4 教職員の資質向上 5 学校運営の効率化(働き方改革)
---------	---

教科の目標	(1)(知識・技能)自分を取り巻く様々な環境において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付けさせる。 (2)(思考・判断・表現)実社会と自分の関わりから問題を見だし、情報の収集・分析による解決の重要性について気づかせる。 (3)(主体的に学習に取り組む態度)主体的・協働的に探究に取り組み、人間の相互理解の大切さを学ばせる。
-------	--

科目名		単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)	
自由研究		3	通信制・普通科・第3学年		
科目の目標		生徒の興味・関心に応じて選択設定した課題(私の住む町・現代人の心と健康・趣味の世界・犯罪と人間・暮らしと福祉・自然と向き合う・私と生きがい・平和を考える)の中から選択する。テーマ設定、研究手法を通して課題を発見し解決していくための基本的な資質や能力を育成すると共に、協働的に課題に取り組む態度を身につける。			
レポート締切日	レポート内容	レポート回数	レポートで育成する資質・能力 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」	スクーリング回数	学習活動 ＜評価規準・評価方法＞ ①:「知識・技能」 ②:「思考・判断・表現」 ③:「主体的に学習に取り組む態度」
6月28日	探究テーマの作成と年間計画	1	身の回りの課題についてテーマを決定する。 ① テーマを決定し、年間計画を作成することで主体的・協働的な態度を育成する。 ①	1	自分の身近な興味関心からレポートのテーマを立てる。 探究活動を行うにあたり、その方法を具体例から学習し、課題研究の見通しをもつ。 ①②③
8月31日	探究テーマの調査・深化 (調べ学習)および(行動変容型学習)	2	考察したテーマを適切に表現する。 ② 探究テーマの内容をふまえ、個人で探究活動を実施する。 ③	2	探究課題に対して、書籍、インターネット検索を通して情報収集に取り組む。 課題研究の道筋を多目的に考察する。 レポートテーマに基づき作成する。 ①②③
11月29日	探究テーマの調査・深化 (調べ学習)および(行動変容型学習)	3	考察したテーマを適切に表現する。 ② 探究テーマの内容をふまえ、個人で探究活動を実施する。 ③	3	探究課題に対して、書籍、インターネット検索を通して情報収集に取り組む。 課題研究の道筋を多目的に考察する。 レポートテーマに基づき作成する。 ①②③
1月10日	レポートのまとめ及び振り返り	4	自身で設定した探究課題に対してまとめるとともに、資質や能力を育成する。 ①②③	4	今までの学習で分かったことをまとめる。 自身の探究活動を振り返り、感想、考え、提言をまとめる。 ①②③
レポートの計		4			